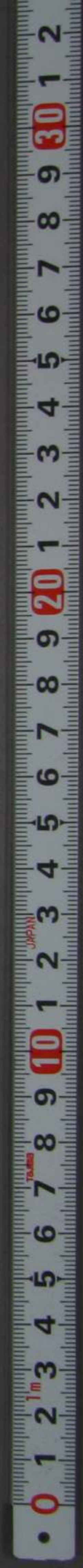


検査寮處務順序



丁  
十二  
上

は  
一



114  
A2195  
2



第一款

歳入出概計ノ内譯明細簿ヲ製スル事

第一節

歳入出内譯明細簿原由ノ度

會計ノ一歳ハ甲年七月ニ起リ乙年六月止

ル而シテ此一歳中收入スヘキノ入報ノ訂午

歳尾ニ於テ其該額ヲ豫定シ以テ其年百報ノ

經費ニ充用スルノ目途ヲ定立シ收入全報ノ

科目ト支出全報ノ該目ヲ歴々列載シテ一編

ノ計表トス之ヲ歳入出見込會計表トス

大正十一年四月

大歳

般ニ公布シ一歳會計ノ一次同領トシテ  
其内譯明細簿ヲ製スルハ當寮ノ掌管タルヲ  
以テ之ヲ調製スルノ順序ヲ執テ第二節以下  
ニ掲ク

### 第二節

歳入出會計ノ目途ヲ定立スル也

内譯明細簿ヲ製スルヤ即第二款ニ掲ル租稅  
寮ニテ精理シタル各寮ノ彙計表及内譯明細  
簿ニ準據シ歳入出内譯明細簿ノ雛形ニ刊載  
スル科目ニ照シテ毎科該算ヲ登録シ歳入出  
見込會計表ノ  
トシテ之ヲ御ニ呈ス

### 第三節

各寮ノ前年ヨリ超過スルモノハ其寮ニ  
推問スル也

各寮ヨリ送致スル概計表及内譯帳ノ内事業  
ノ興廢ニ隨ヒ費額ノ増減スルモノハ其事項  
ヲ詳記スルモノトイヘ凡若事由不明ニシ  
テ前年ノ実費ヨリ超過スルノ費額アレハ其  
寮ニ對シテ推問精究シ更ニ内譯明細簿ヲ製  
シ御ニ呈ス

### 第四節

歳入金額ノ歳出ヨリ不足スルハ費額ニ減削  
スルノ見込書ヲ作ル也

一般歳入出ノ金額ヲ合計スルニ方リ収入ノ  
金額支出ノ算額ニ不及シテ不足ヲ生スル等

ノ事アレハ各廳事務ノ緩急ヲ量リ費額減削  
ノ見込書ヲ作り御ニ呈ス

第五節

歳入出内譯明細簿調整期限ノ更

各廳収入支出ノ概計表ハ地方ノ遠近ニ應シ  
速送日数ノ遅速アリト虽此断シテ二月一日  
ヲ以テ各廳ヲ發スルノ程期トスレハ三月三  
十一日ニハ果シテ本省ニ送致スルヲ豫定ス  
ハシ故ニ右期日ヨリ凡三十日間ヲ以明細簿  
ヲ製スルノ限日トシ四月二日ヲ以御ニ上呈  
スルノ期日トス

第六節

歳入出見込表公告期限ノ事

歳入出内譯明細簿ハ御ノ覽閱ヲ經テ主務  
寮ニ付シ歳入出見込會計表ヲ作ラシム  
但此會計表ハ四月二十日ヲ以正院ハ上達  
スヘキモノニシテ五月十五日ニハ一般公  
布アルヘキモノナリ

第七節

定額及臨時費等ノ額ヲ各廳ハ公達スル是

見込會計表ハ各廳ヨリ送付スル概計表及内  
譯簿ニ摠リ之ヲ沙汰増減シ或ハ増減セサル  
モ其年交付スヘキ經費ノ如キハ送付詳記シ

テ公告スヘキモノトス故ニ各廳ニ屬スルノ  
經費ハ必各廳ニ對シ支給スヘキノ額タルヲ  
ヲ明備ニ公達アルヘク猶本省ハ其内譯ヲ  
詳記シタル簿冊ヲ下達アルヘキナレハ該書  
類ノ寫ハ本寮ニ接受シ右ヲ根基トシテ歲入  
出全額ノ計數ヲ追調精理ス

第八節 歲入出精算内譯明細簿原由ノ支

見込會計表ハ一歲ノ收入支出ヲ豫算シ以テ  
會計ノ目途ヲ立ツルモノナレハ猶實際ニ就  
キ収出ノ全額ヲ勤査追調シ其確數ヲ得テ以

一編ニ存録ス之ヲ歲入出精算内譯明細簿ト  
ナス

第九節 精算内譯明細簿ヲ調成スル期限ノ事

精算内譯明細簿ハ見込會計表ノ該目ニ準據  
シ實際収出セシ處ノ全額ヲ追査推求シ前年  
ノ精算 前々年七月ヨリ前年六月迄及十一歳ノ精算ヲ云ハ翌年一月ヲ期トシ  
之ヲ調成シテ卿ニ呈シ其檢閲ヲ經テ主務ノ  
寮ニ付シ精算會計表ヲ作ラシメ三月二日ヲ  
期トシ正院ハ上達アルヘシ

第十節

歲入出追調簿ヲ製シ精算内譯明細簿ヲ  
製スルノ基礎トスル事

精算表ヲ製スルノ基礎ト為シカニ歳入出  
追調簿ヲ製シ日々收入支出スル處ノ全額ハ  
見込會計表ノ該目ニ照査シ追算簿及租税月  
報ヨリ追算簿ハ第六款租税月報ハ  
第三款ニ就テ見ルヘシ登録シ豫算ノ全額  
ト實際収出スル處ノ全額ト差引勘算シ以テ  
毎科全額ノ贏餘不足ヲ調算ス

第十一節 豫算精算ノ比較表ヲ製スル事

歳入出全額ノ概算ト實際収出ノ多寡トハ追  
調簿ニ準據シテ明瞭ノ比較表ヲ製シ第一号雜  
形ノ如シ  
毎三ヶ月御ニ呈シ御ノ檢閲ヲ經テ正院ニ上

達シ原書ハ本寮ニ備フ

第十二節 歳入出内譯明細簿及追調簿等書式体裁ノ定

歳入出内譯明細簿及精算内譯明細簿追調簿  
等ノ書式体裁及表出スル該目等ハ第二三四  
号雜形例言等ニ詳悉ナレハ之ヲ調成スルニ  
方リ總テ此雜形該目ニ準據スヘキモノトス而シ  
テ歳入出内譯明細簿ノ如キハ其年ノ景況ニ  
應シテ斟量參査シ御ノ決裁ヲ乞テ以之ヲ調  
成ス

第二款

院省使府縣ヨリ送呈スル所ノ収出全額概計表  
ヲ調査勘算スル事

第一節

各廳收支概計表ノ原由及送致期限ノ事

一 歳収 入 支 出 スル 全 額 ノ 多 寡 ヲ 調 理 シ 歳 費  
ノ 目 途 ヲ 確 立 ス ル ハ 會 計 ノ 大 基 礎 タ ル ヲ 以  
須 ヲ 先 ツ 前 年 ニ 於 テ 翌 年 一 歳 會計上ノ一歳ヲ  
右以下之ニ徴フ  
収 出 概 計 表 ヲ 調 成 セ シ メ 院 省 及 東 京 府 ハ 二  
月 二 日 ヲ 期 ト シ 本 省 ニ 送 致 セ シ メ 其 他 ノ 使  
府 縣 ハ 二 月 二 日 ヲ 期 ト シ 其 廳 ヲ 發 遣 セ シ ム

ルノ程期トス

第二節

概計表ニ内譯帳ヲ添付セシムル度

収入支出ノ概計表ハ一歳會計ノ目途ヲ立ル  
モノニシテ尤緊要ナルモノナレハ計表ノ外  
別ニ収出全穀ノ科目及該額ヲ詳悉登録セシ  
明細ナル内譯帳ヲ添付セシム

但歳入出概計表及内譯帳ノ書式ハ第五号

雜形ニ詳ナリ

第三節

概計表及内譯帳ノ大体ヲ示ス事

内譯帳ハ本廳及部内ノ蔡司支局ノ収入及経

費ノ該額ヲ各々分門シ其品類ニ應シ傍ラニ  
前一年或ハ三年五年ノ実額ヲ逐件掲記シ毎  
廳聚集シテ一簿冊トシ科目ヲ逐テ以テ概計  
表ニ登載スルモノトス然レモ前年ノ実額ノ  
如キハ内譯帳ノミニ掲記スヘキモノニシテ  
概計表ニハ之ヲ掲ケス

第四節

概計表及内譯帳ノ租税ニ関スルモノハ租  
税察ニテ精査ノ後本察ニ受付スル度

各廳ヨリ送致スル第一葉ノ収入概計表及内  
譯明細簿ハ本省ニ送付スルニ隨ヒ一般租税ニ  
関スルモノハ租税察ニテ之ヲ受ケ一歳収入



ノ多寡ヲ精覈淘汰シ各廳ヲ收束シ三月十日  
ヲ以テ卿ニ呈スルノ程期トシ卿ノ一閱ヲ  
了シテ直チニ本寮ニ接受ス

第五節

該計表及内詳明細簿ノ内税外ノ收入ハ本寮ニテ調査スル也

各廳ヨリ送致スル收入際計表及内詳明細簿  
ハ租税ノ全額ト税外收入ノ全額トヲ併セテ  
掲記スルヲ以テ租税ニ関スルモノハ租税寮  
ノ精査ヲ經ルトイヘ凡税外收入ノ全額ハ其  
簿冊ヲ接受スルニ隨ヒ本寮ニテ之ヲ精理シ  
前十八ヶ月前一ヶ年ノ実納高ヲ比照シテ之

ヲ調成ス

第六節

經費概計表及内詳明細簿ヲ調査スル  
順序ノ良

經費ノ概計表及内詳明細簿ハ直チニ本寮ニ  
受ケ前五ヶ年三ヶ年或ハ前十八ヶ月前一ヶ  
年ノ実費ト比較照查シ事由全額ノ不明了ニ  
シテ解シ難キモノハ其廳ニ就テ推問精究ス  
ルハ第一款三節ニ掲ルカ如シ

第七節

各廳ノ概計表ハ二歳五業ヲ要シ及五業ノ計表ヲ  
差出スヘキ期限ノ良

各廳ヨリ送付スル概計表ハ豫算ノ全額ト実  
際収出スル處ノ全額ヲ比照調査スル為メ一

歳ニ五葉ヲ要スルモノトス而シテ各廳ヨリ  
 送致スルノ期節ニ於ル其第一葉ハ前年ニ於テ翌年一  
歳ノ收入経費ヲ見後リ 本款第一節ニ掲ル期限ノ  
内譯帳ヲ添付スルモノ 如ク差出スヘキモノトシ第二葉ハ七月ヨリ  
 十月二十日第三葉ハ十月ヨリ 十一月二十日第  
 四葉ハ一月ヨリ 三月マテ四月二十日第五葉ハ四月ヨリ  
 七月二十日ヲ期トシ院省及東京府ハ同日本  
 省ニ送致シ其他ノ使府縣ハ同月同日其廳ヲ  
 發スヘキモノトス

第八節 第二葉以下統計表追調ノ事

二葉以下ノ統計表ハ一ヶ年収出スヘキノ概  
 額ヲ比較スル為ニ差出スヘキモノナレハ租  
 税ニ関スルモノトイヘ凡直々ニ本寮ニ接受  
 シ其年全穀ノ現実収入スルモノ及支出スル  
 モノトノ算數ヲ把テ歳入出追調簿ト即第一  
節ニ掲 節ニ掲ルモノ對照シ歳入出ノ目途高ヨリ増殖スル  
 モノ及不足スルモノトヲ精査シ以テ入出ノ  
 惣計ヲ調査ス  
 但租税及事業ノ興廢ニ寄り収出金額ノ増  
 減アル片ハ第二葉以下ノ計表ト雖モ必ス

内譯明細簿ヲ添付セシムルヲ則トス

第九節

概計表調査ノ後卿ノ一閱ニ供スル事

二葉以下ノ概計表ハ調査勘算スルノ後卿ノ  
檢閲ニ供シ了テ本寮ニ備フ

第三款

租税一切ノ勘定帳ヲ調査勘算スル事

第一節

租税寮ノ報告ヲ本寮ニ接受スル事

地租其他租税寮ニテ徴収スルモノハ同寮ニ  
テ每一月毎三月ノ報告ヲ製シテ卿ニ呈シ其  
檢閲ヲ經テ以テ本寮ニ接受スルヲ程規トス  
而シテ每一月ノ報告ハ徴収スル全額ノ該額  
ヲ統記シ毎三月ノ報告ハ院省府縣ト年度科  
目トヲ詳明ニ判別スルモノトス

第二節

租税ノ月報ヲ出納寮勘定帳ニ照查  
スル事

租稅月報本察ニ接受スルニ隨ヒ第四款第一節ニ掲ル出納察ノ日ノ突合表ニ照合シ其算額ヲ算定シテ遺脱差違ナキヲ保ス可シ而シテ每一月ノ月報ハ一冊ヲ月報ニ冊ヲ要スルカ如本察ニ止メ一冊ハ直午ニ統計察ニ送致シ毎三月ノ月報ハ第三節ニ掲ル午續ヲナス

第三節

租稅ノ月報ハ二冊ヲ要スル事

租稅月報ハ每一月毎三月ニ冊ヲ製シ差出スヘキモノトス而シテ每一月ノ報告ハ本款第二節ニ掲ル如ク調査ヲ經テ之ヲ統計察ニ送

致シ毎三月ノ報告ハ決算證書ヲ

決算證書ノ交付スルノ

項序ハ第七款ニ詳ナリ交付シ了テ亦タ同察ニ送致シ其

一冊ハ本察ニ止メ元帳トスヘシ但租稅ノ全數ハ顯収ノ際本察傳票ノ證檢ヲ經サルヲ以テ其算數ノ記存スルモノ無キカ故ナリ

第四節

租稅ノ未納ヲ督促スルノ理アル事

一般租稅ノ顯ニ收納スルモノハ遺漏ナク之ヲ月報ニ登記シ其收額ノ既ニ確定スルモノニシテ未タ全額皆納ニ至ラサルモノハ若干収ケル處ノ確數ヲ肩書ニシ更ニ内納ノ譯ヲ

記載シ或ハ月額ヲ以收入スルモノハ何月分  
收入ノ譯ヲ記載スヘキモノトス故ニ其金額  
ノ未納ニ涉ルカ或ハ月額收入ノ全額延納ス  
ル片ハ租税寮ニ對シ督促領収セシムルノ理  
アルヘシ

### 第五節 租税年報ノ事

一般ノ租税ハ一歳ノ収額ヲ領受シ了ルニ方  
リ租税寮ニ於テ年報ヲ製シテ以テ卿ニ呈シ  
本寮ニ接受スヘシトス而シテ此年報ハ其計  
數ヲ調査勘算シテ嚮キノ月報ト照査シ差違  
ナキヲ要シテ之ヲ本寮ニ止メ以テ歳入出精  
算表ヲ製スルノ照會ニ供ス

### 第六節 租税月報年報書式ノ事

租税寮ヨリ送呈スル収入ノ月報年報ノ書式  
及ヒ之ヲ調成スルノ順序ハ第六号雛形及例  
言ニ詳ナリ

第四款

出納寮ニテ調成スル一般収入支出ノ勘定帳ヲ  
調査勘算スル事

第一節

収入突合表及日ノ表ノ莫

出納寮ニテ金穀ヲ顕収スルノ順序ハ各廳ノ  
名稱納入ノ事項顛末貨幣ノ種類ト年度トヲ  
甲乙兩部準  
備ヲ区分ス  
詳明ニシ以テ収入スヘキモノ十  
レハ每一月製スル處ノ突合表及日ノ表  
及日ノ表ト稱スルモノハ日々收入スル金穀  
ヲ登記スル計表ニシテ則勘定帳同種ノモノ  
トモ其事項目ヲ明別シ以テ登記スヘキモ

ノトス

第二節 支出突合表及日ノ表ノ支

支出ノ突合表及日ノ表ヲ製スルモ其事款ヲ記載スルハ收入ノ部ニ異ルナシ

第三節

突合表及日ノ表ハ收入ト支出トヲ併セテ一表トシ準備ノ収出ハ別表トスル也

突合表及日ノ表ハ收入支出トヲ併セテ一表トシ只収支ノ畧畫ヲ區分スルノミ但準備ノ収出ハ別表トシテ之ヲ分ツ其調成ノ書式ハ常用全穀ノ表式ニ異ルナシ

第四節

突合表及日ノ表ニ請取證書ヲ付シ本寮ニ領取スル事

常用準備ノ突合表及日ノ表ハ甲月ニ関スル一般収出ノ全穀ヲ収束シ乙月五日ヲ期トシテ調成シ及ヒ全穀ヲ交付スルノ際各廳ヨリ出納頭ノ名宛ヲ以テ差出タル受取證書ヲ添付シ以テ卿ニ呈シ卿ノ檢閲ヲ經テ本寮ニ接受ス

第五節

突合表及日ノ表ヲ照査勘合スル支

常用準備ノ突合表及日ノ表ハ本寮ニ接受スルニ隨ヒ本寮ノ追算簿即第六款ニ掲ルモノ及租稅寮ノ月報即第三款第一ニ掲ルモノニ照査シテ該數事項ヲ

精覈ニシ税外収入ノ全數ハ出納寮ヨリ各廳  
へ付與セル請取証書支出ノ全數ハ各廳ヨリ  
出納寮へ差出タル處ノ受取証書ノ番号ヲ執  
テ逐件追算簿ニ詳記シ租税ノ全數ハ租税寮  
ノ月報ニ証書ノ番号ヲ記載スルヲ以テ該簿  
冊ト勘合シ又タ別ニ簿冊ヲ製シテ納先受取  
先ノ各廳ノ名稱及全負等ヲ詳記シ以テ其證  
書ヲ受授交換スルノ證票トス

第六節

經費ノ受取証書ヲ各廳ノ勘定帳ニ照合スル也

各廳ヨリ差出タル一般經費ノ受取証書ハ勘

定帳ノ受取元高ニ勘合シテ以テ其多寡ヲ精  
査スヘキモノトス但精査ノ方法ハ第五款第  
十一節ニ詳ナレハ爰ニ掲ケス

第七節

出納寮ノ突合表及日一表ノ決算證書ヲ交付スル也

突合表及日一表ハ本寮記存ノ簿冊及租税ノ  
月報ニ參看精調シ了テ決算済ノ證書ヲ作り  
卿ニ呈シ理財傳票掛ヲ經テ出納寮ニ送致スル順  
序ヲナスヘシ但此順序ハ第七款ニ詳ナレハ  
亦爰ニ掲ケス

第八節

突合表及日一表ヲ統計寮ニ送致スル也



大 痛 省  
突合表及日一表ハ諸般ノ順序ヲ了シテ以テ  
統計寮ニ送致ス

第九節 収出受取證記載スル簿冊雛形ノ事

第五節ニ掲記スル諸収入支出ノ受取證書ヲ  
登記スル簿冊ノ書式雛形ハ第十三号ニ詳十

第五款

院省使府縣出納勘定帳及ヒ税外収入勘定帳ヲ  
調査正算スル事

第一節 出納勘定帳原由ノ事

凡ソ出納勘定帳ハ各廳於テ大蔵省ヨリ受領  
シタル一切経費ノ金穀定額内外常費臨時費  
等ノ區分ヲ詳明ニシ實際消費ノ正確ナルト  
計數多寡ノ明亮ナルトヲ詳カニスル為メ出  
納勘定帳雛形及ヒ勘定仕上ニ緊要ナル定規  
ニ基キ精密調整シテ之ヲ大蔵省ニ送致スル

大 蔵 省

モノトス

第二節

税外收入勘定帳原由ノ支

税外收入勘定帳ハ各廳於テ現ニ收入セシ金  
穀ノ名目及ヒ其計數等ヲ詳明ニシ誤謬遺脱  
ナキヲ證スル為メ税外收入勘定帳雛形及ヒ  
其緊要ナル定規ニ基キ精密調整シテ之ヲ大  
蔵省ニ送致スルモノトス

第三節

勘定帳種類ノ事

勘定帳及ヒ附属簿冊ノ種類ヲ掲ル左ノ如シ

院 首

金穀出納勘定帳

然括  
内記共

未決算金穀仕譯帳

税外收入金穀勘定帳

開拓使

金穀出納勘定帳

上全

未決算金穀仕譯帳

貸渡金受拂勘定帳

税外收入金穀勘定帳

府 縣

金穀出納勘定帳

上全

豫備操替金仕譯書

未決算金執仕譯書

貸渡金受拂勘定帳

税外収入金執勘定帳

第四節 各院省及東京府勘定帳送致期限ノ事

各院省及東京府勘定帳ハ每一ケ月ニ之ヲ區分シ甲月ノ勘定帳ハ乙月廿日ヲ限リ本省へ送致セ使ルヲ則トス

第五節 開拓使及京阪二府各縣ノ勘定帳送致期限ノ事

開拓使及京阪二府各縣ノ勘定帳ハ每三ケ月之ヲ區分シ左ノ期程ニ從テ該地ヲ發遣スルヲ則トス

七月ヨリ三ケ月分 十月廿日限

九月マテ三ケ月分 十一月廿日限

十月ヨリ三ケ月分 一月廿日限

十一月マテ三ケ月分 四月廿日限

三月マテ三ケ月分 七月廿日限

第六節

院省使府縣支廳アル向毎歲々末ノ勘定帳送致期限ノ事

院省使府縣共毎歲最後 院省東京府ハ六月分

開拓使及京阪二府 各縣ハ四月ヨリ六月迄三ケ月分ノ勘定帳ハ歲費完結ノ期節

タルヲ以テ第七節ニ掲ル支廳勘定帳編入ノ

定期ヲ参酌シ本廳ヲ距ル五十里外ニ支廳  
ル向ハ第五節ニ掲ル定期ノ外本支廳ノ距離  
百里ニ付日数十日ノ割合ヲ以テ延期スルヲ  
則トス

第七節

各支廳分向ノ勘定帳ヲ本廳勘定帳ニ  
編入期限ノ事

各支廳勘定帳ハ悉ク之ヲ本廳勘定帳ニ編入  
共計ス然リト虽モ懸隔ノ地ニアル支廳ニ至  
テハ本廳勘定帳ニ同時ニ編入シカタシ故ニ  
本支廳距離ノ遠近ヲ量リ左ノ期程ニ從テ編  
入スルヲ則トス

但五十里以内ノ地ニアル支廳ノ勘定帳ハ

本廳勘定帳ト同一ノ月ニ譬ハ本支廳一月分ノ  
勘定帳ハ本廳一月分

勘定帳ニ編入スルノ類ナリ編入ス

院 省

五十里外二百里迄ノ地ニアル支廳甲  
月ノ勘定帳ハ本廳乙月分ニ編入二百  
里外五百里迄ノ地ニアル支廳甲月ノ  
勘定帳ハ本廳丙月分ニ編入漸次此例  
ニ準シ編入ス

開 拓 使

七  
八  
二  
三  
月  
報  
館  
留  
前  
東  
京  
三  
月  
全  
上

右七八二ヶ月ハ本廳七八九月分九十  
十一三ヶ月ハ全上十一十二月分十  
二一二三ヶ月ハ全上一二三月分ハ編  
入ス

三四  
五六  
四  
ヶ月  
報  
館  
留  
前  
東  
京

右本廳四五六三ヶ月分ハ編入ス

但樺太ハ七月ヨリ九月マテ十月ヨ  
リ十二月マテ毎三ヶ月ヲ保セテ本

廳一二三月分ニ編入シ一月ヨリ三

月マテ四月ヨリ六月マテ毎三ヶ月

ヲ四五六月分ニ編入ス最樺太ノ外

各支廳ノ分モ道路阻塞ニ寄リ前ニ

掲ル如ク編入シカタキ事アレハ其

旨ヲ申達シ次ノ勘定帳ニ編入スル

妨ケナシトイヘ氏歳尾ノ勘定帳ニ

ハ言載綜計シテ遺漏ナキヲ成規ト

ス

府  
縣

五十里外ノ地ニアル各支廳經費勘定帳ハ每歲七八兩月分ヲ本廳七月ヨリ九月マテ三ヶ月分ヘ編入シ九月ヨリ十一月マテ三ヶ月分ハ本廳十月ヨリ十二月マテ三ヶ月分ヘ編入漸次此例ニ準シテ編入シ三月ヨリ六月マテ四ヶ月分ハ本廳四月ヨリ六月マテ三ヶ月分ヘ編入セシム

第八節

各支廳分局ノ勘定帳歲尾ノ分ハ本廳ト同一ノ月ヘ編入スルモ

支廳勘定帳ハ前節ノ例ニ準據シ本廳勘定帳

ヘ編入スト魚モ其年ノ勘定仕上ハ其年限リ區分決算シ決テ翌年ノ勘定ニ編入スルヲ許サス故ニ歲尾ノ勘定帳ハ院省府縣ハ六月分如載シル本廳ト同一ノ月ヘ編入スルヲ別トス

第九節

公使領事館勘定帳送致期限事

外國派出我公使領事館ノ出納勘定帳ハ每三ヶ月ヲ區分シ翌月廿日限リ卸船ノ都合ニヨル縮スルヲ該地ヲ發遣スヘシ而シテ外務省於テハ每三ヶ月間現ニ到着スル所ノ勘定帳ヲ以テ別ニ總括セル勘定帳ヲ製シ翌月廿日

ヲ限リ本省ニ送達スルヲ則トス

### 第十節

公使領事館勘定帳歳尾ノ送致方ノ更

公使領事館勘定仕上モ各廳ト同ク兩年ハ跨

ルヲ許サス故ニ最後四月ヨリ六月マテノ三ヶ月分

ハ各館ノ勘定帳悉ク到達スルヲ待テ前節ニ

掲ル如ク外務省ニ於テ総括勘定帳ヲ製ス但

各館ノ勘定簿全備ノ日ヨリ廿日ヲ限リ本省

ニ送致セシム

### 第十一節

勘定帳元受高等調査ノ事

前各節ニ列載スル程規ニ循テ出納勘定帳ヲ

本省ニ送致スレハ本省之ヲ当察ニ下付ス茲

ニ於テ先ツ簿冊調成ノ体裁ヲ檢閲シ違謬ナ

キキハ院省東京府ハ前月ヨリ越高及ヒ本月

ノ支給高使府縣ハ前三ヶ月ヨリ前年ヨリ越高

モ調査ス及ヒ茲回三ヶ月ノ支給高ト最ニ出納頭へ

出シタル第一号受取證書第十二号雛形ニ詳ナリ及ヒ第

二号決算未済證書第十二号雛形ニ詳ナリノ高ト照合シ

差謬ナキヲ保シ其高ニ(突合済)ノ印ヲ捺ス若

シ元受高等誤脱アレハ其旨該廳へ達シ再調

セシムヘシ假令些少ノ數額タリ氏決テ差違

アラシム可カラス

第十二節

消費ヲ検査シ計數ヲ勘算スル度

出納勘定帳元受高等差謬ナキモノハ其消費ノ当否ヲ検査シ計數ノ多寡ヲ勘算ス其順序

第十三節以下ニ掲ル如シ

第十三節

官算月俸

官員月俸ハ則チ曩キニ頒布アリシ月俸規則及ヒ各廳ヨリ申告スル官算照陟書ニ照シテ每等人員及ヒ支給高ト其緣由等ニ至ルマテ精密ニ調査勘算ス

第十四節

全上

一般月俸規則ノ外或ハ正院ノ允許ヲ得或ハ正院ノ委任ニ因テ該廳限リコレカ變則ヲ設立シ及ヒ之ヲ改正スルニ俟コレアリ此ノ如キノ類ニ於テハ正院正院ノ允許又ハ各廳各廳ハ委任ノモノヨリ詳悉其事款ヲ本省ニ報告シ本省之ヲ當察ニ達ス故ニ本察主務ノ者ハ其報告ニ準據シテ之ヲ調査勘算ス

但各廳限リ設立セシ定規ノ報告中若シ其事款各廳長官ノ權外ニ超越シ正院ノ



允許ヲ不經モノアルハ其旨ヲ具シ達案  
ヲ作リテ御ノ決判ヲ請ヒ而シテ達書ト共  
ニ其報告ヲ返還スルヲ例トス故ニ如此ハ  
正院ノ允許ヲ經タル上ニアラサレハ決テ  
定規ト見做スヘカラス  
以下  
做之

### 第十五節 雇外國人給料

各廳雇入外國人給料及ヒ諸手当金等ハ其雇  
入或ハ雇継ヲ許可セシ旨正院ヨリ本省へノ  
命令書本省ヨリ當寮ニ達スル  
第十四節ノ如シ以下做之及ヒ右ニ附  
属セル雇入條約書ニ基キ每一員其支給方ノ  
当否ヲ検査シ計數ヲ勘算ス

### 第十六節 官負旅費

旅費ハ則チ正院ヨリ頒布アル旅費定則ニ準  
據シ並旅行巡回其他各種ノ名義ニ就テ支給  
方ノ当否ヲ審査シ其計數ヲ勘算ス

### 第十七節 全上

各廳於テ旅費日當ノ額ヲ節減シ或ハ變則ヲ  
設立スルノ際本省へ報告スルノ順序第十四  
節ニ異ルナシ故ニ如此類ハ其報告ニ準據シ  
テ精密ニ調査正算ス

第十八節 在外國人旅費

各廳雇入外國人旅費ハ現費給與ノ成規ナレ  
ハ官私出途ノ區分ヲ明辨シ其官給ノ費程相  
当ナルヤ否ヲ精密ニ調査勘算ス

但各廳限リ適宜給與ノ方法ヲ設立シタル  
モノハ其方法ニ基キ調査スルヲ第十七節  
ニ掲ル如シ

第十九節

公使領事館在勤ノ官員于當  
全等

外國派出我公使領事館ノ經費及ヒ其在勤官  
員ノ于當金等ハ外務省於テ正院ノ允許ヲ得

タル條例及ニ其他ノ定規ニ準據シテ其当否  
ヲ審査シ費程ヲ勘算ス

第二十節 生徒給養

陸海軍文部等ノ官費ニ寄宿スル官費生徒給  
養ニ関スル經費ハ該廳ニ於テ正院ノ允許ヲ  
經タル定規ニ準據シテ調査勘算ス

第二十一節 兵員給糧

陸海軍兵員ノ給養被服等ノ經費モ前節ニ全  
シ

第二十二節 各府縣捕亡吏給料旅費

各府縣捕亡吏給料及ヒ旅費ノ如キハ該廳於  
テ適宜支給ノ方法ヲ設立シ而シテ第十四節  
ニ掲ル如ク之ヲ本省ニ報告スルヲ例トス如  
此ハ各其方法ニ基キ給與ノ当否ヲ審査シ費  
程ヲ勘算ス

第二十三節

家祿賞典祿

家祿賞典祿等ハ主任ヨリ報告スル所ノ祿高  
帳ニ照シテ其本額ノ相当スルヤ否ヲ調査勘  
算ス

第二十四節

社寺祿

社寺遍減給米ハ主任ヨリ報告スル所ノ簿冊  
ニ照シテ支給額ノ当否ヲ調査勘算ス

第二十五節

徵兵入費

徵兵入費ハ徵兵及付添區戸長ノ旅費雇医用  
使ノ給料等總テ陸海軍省於テ概定スル所ノ  
規程ニ準據シテ精密ニ調査勘算ス

第二十六節

徵役場費用

徵役人等ハ專ラ授工服役ヲ主トシ其収入金  
ヲ以徵役場百般ノ費用ヲ維持供給スルモノ  
トス若シ其収入ヲ以テ充用不足ヲ生スル所

ハ之ヲ官給スルノ成規ナレハ官費ハ勿論収  
金支出ノ費額ヲモ精細ニ調査勘算ス

第二十七節 建築等ノ費用

修路架橋沼河堤防營業等ニ関スル費用ハ一  
事業毎ニ分畀ヲ明カニシ譬ハ甲ノ事業ハ若  
千金ヲ消費シ乙ノ事業ハ若干金ヲ供給スル  
等明細ノ勘定ヲナスモノトス故ニ其事業ノ  
分畀毎件仕拂ノ当否ニ至ル迄精密ニ點檢ヲ  
逐ケ而シテ其費程ヲ正算ス

第二十八節 成規アル雜給

凡ソ成規アルモノ即満年賜金官負宿代其他  
般々ノ雜給ハ例規沿革檢査察ニテ編纂ス  
ル一般成規アル文  
書ヲ類聚スニ照準シ当否ヲ誓査シ計數ヲ勘調  
ス

第二十九節 實價ニ就キ供給セシ費用

諸物品買上代其他總テ實價ニ就キ供給セシ  
モノハ必ズ其需用ノ緣由ヲ辨明シ而シテ費  
額ヲ勘算ス

第三十節 臨時支給セシ費用

臨時支給セシ金穀ハ總テ最前其費用ヲ請求

スルノ際、脚ノ決判アル回議書ノ副本又ハ内務省第二類通知書ニ就テ、内務省通知書ハ其府縣ノ費用ニ限ル其因故ヲ辨明シテ、臨時費中成規定額ニ係ルアリ本寮ニ回議セシ片第二十款第八節ニ掲ル如ク再回ヲ要シタルモノハ本寮ノ簿書ニ就テ、井明シ若シ成規定額ニ関涉セズ、第十款第二節ニ掲ル如ク、脚ノ達ヲ受ケタルモノ、其他内務省第二類ノ通知書ハ、而シテ消費ノ当否ヲ稽查シ計數ヲ勘算ス

### 第三十一節

各廳定額金ヲ以テ供給スヘキ費途ハ正院ヨリ下付スル内訳帳ニ照シテ井明スル事

凡、各廳定額金ハ正院ニ於テ之ヲ議定シ、其金額及ヒ内譯等詳悉本省ニ達ス、當寮之ヲ受

領シ其消費ヲ検査スル常ニ此達書ニ照シテ定額内ノ出途ヲ辨明スヘシ、若シ夫レ甲定額ノ剩餘ヲ以テ乙定額ノ不足ヲ補ヒ、或ハ官給ノ費用ヲ民費ニ課スル等ノ、アレハ速ニ之ヲ更正セシムルノ順序ヲ為ス

但正院ノ許可アルモノハ此例ニ非ス

### 第三十二節

豫備繰替金仕訳書ヲ調査勘算スル事

豫備繰替金仕訳書ハ、最前其繰替ノ儀ヲ該府縣ニ指令セシ時々本省ヨリノ達書本寮起案本寮ニ取藏スル記又ハ内務省ヨリ回付スル録、寮ノ副本ニ照ス

第一類通知書

第十一款第二十八及七成規ニ

照シテ消費ノ当否ヲ調査シ計數ヲ勘算ス

但豫備繰替金ハ其仕譯書ヲ調査正算シ差

謬ナキヲ保シ而シテ現金ヲ交付シ第十一款ヲ參

考スハシ直キニ之ヲ勘定帳元拂ニ編入シテ決

算スルヲ例トス

第三十三節

未決算金穀仕譯帳ヲ審査勘算スルモ

未決算金穀仕譯帳ハ其決算ニ至ラサル緣由

ヲ審査シ計數ヲ勘算スルモノトス最モ事業

ノ濟否長短ヲ不問院省東京府ハ每一ケ月開

拓使及ヒ京阪二府各縣ハ每三ケ月中仕切決

算ヲナスノ成規タルヲ以テ若シ其決算遅延

スルモノアレハ主務ノ廳ニ推問督促シテ速

ニ決算セシムルヲ要ス

但外國へ注文物品代價ノ如キ物品到着ノ

上ニアラサレハ事實決算ニ至リカタクキモ

ノハ到着ノ上決算セシムルノ例ニ據ルハ

シ

第三十四節

貸付金穀勘定帳ヲ調査勘算スル

貸付金穀勘定帳ハ其貸付及ヒ返納ノ額主任

裁

ヨリノ報告書ニ照査シテ当否ヲ明辨シ計數ヲ勘算ス

第三十五節

百般ノ出納ハ成規ト定額トニ據テ  
檢査スル事

第十二節以下第三十四節以上ニ掲載スル所ハ勘定帳検査上ニ於テ概テ例準ヲ示スノミ凡百般ノ出納各其成規アリ或ハ定額アリ隨テ検査ノ順序モ異同ナキ能ス故ニ如此ハ前例ニ倣ヒ各具成規ト定額トニ照準シテ精密ニ之ヲ検査ス

第三十六節

勘定帳及明細表等々毎件調査勘算シテ誤謬ナキルハ(正)印ヲ押シ合計差謬ナキモ亦(正)印

勘定帳内譯毎件明細表通計ニ照査シテ差異ナケレハ(正)印ヲ押シ合計差謬ナキモ亦(正)印ヲ捺ス明細表毎件規格ニ適當セルモノハ檢印ヲ押シ計數差謬ナキハ(正)印ヲ捺ス勘定帳及ヒ明細表共合計ニハ管主者ノ小印ヲ加押ス

第三十七節

經費ノ内事理明晰ナラサル等ノフアレハ之ヲ主任ニ推問スル事

經費ノ内事理明晰ナラサルカ又ハ計算上確當セサルアルハ毎件其趣旨ヲ詳細ニ附箋シ主任ノ官負ヲシテ出頭セシメ逐件之ヲ推問

ス

但京段二府各縣ノ如キ主任ノ官算出京十  
キハ直々ニ第三十八節ニ掲ル順序ヲナス

### 第三十八節 全上

前節ニ掲ル如キ件アリテ主任ノ官算其事理  
ヲ明辨スル能ハサル片ハ其長官ニ對シ書面  
ヲ以テ推問ス

### 第三十九節

経費上規則ニ違戾スルノ條アル片ハ其全  
額決算ニ立カタク旨ヲ談廳へ達スル事

第三十七節三十八節ニ掲ル如ク推究ノ上其  
事全ク規則ニ違戾スルモノハ規則第幾條ニ

違戾スルヲ以テ決算ニ立カタク旨達按ヲ具  
シ卿ノ決判ヲ請ヒ而シテ卿ノ名ヲ以テ該廳  
へ達ス

### 第四十節

決算ニ立カタク旨全算ヲ削除スル旨

前節ニ掲ケシ如ク決算ニ立カタク旨ヲ該廳  
へ達シタル上ハ勘定帳總括ヲ始ノ内譯明細  
表ニ至ル迄悉ク其決算ニ立カタク旨全算ヲ刪  
除シ再ヒ計數ヲ按查シテ決算ノ額ヲ確定ス

### 第四十一節

各廳權限外ノ費用ヲ正院ノ許可ナク  
シテ仕拂ヒタル時ノ度分ノ事

各廳長官權限外ノ費用ヲ正院ノ許可ナクシ



テ仕拂フモノアレハ其顛末ヲ推究シテ第三  
十九節ノ順序ニ從ヒ未決算ノ達ヲナス

第四十二節 税外收入勘定帳送致期限ノ事

税外收入勘定帳ハ出納勘定帳ト共ニ本省ニ  
送致スルヲ則トス

第四十三節 税外收入勘定帳ヲ審査勘算スル事

各廳ヨリ税外收入勘定帳及ヒ内譯表ヲ送致  
スレハ先ツ帳簿調成ノ体裁ヲ點檢シ違謬ナ  
キルハ各其收入ニ付緊要ナル定規ニ照シテ  
審査勘算ス差謬ナキモノハ第三十六節ニ掲  
ル例ニ準シ(税印或ハ倉印ヲ捺ス)

第四十四節 税外收入金穀納付ノ事

税外收入勘定帳調査正算了テ差謬ナキヲ保  
證シ而シテ本月納付スヘキ額ハ常用準備収  
入ノ區分ヲ為シ現金納付ノ回議ヲ付シ各府  
縣ノ  
如キ勘定帳送致前各主任於テ既ニ納付ノ  
順序ヲ了スルモノハ本節ノ順序ヲ要セス卿  
ノ  
ノ決判ヲ請ヒ了テ傳票順序ヲ十廿シム本  
納  
順  
序ハ本節ニ掲ル如シト雖モ勘定帳調査正算  
完結ニ至ラサル前其現金ヲ仮納スルハ明治  
七年十二月二十日  
布達ノ通タルヘシ

但準備金ハ收入スルモノハ國債寮ニ回議  
シ卿決判済金額等帳記ノ為メ再ヒ同寮ニ

送付之帳記了テ還送スレハ直十ニ傳票ノ  
順序ヲ十サシム

第四十五節

税外收入常用準備区分ノ事

税外收入金穀常用或ハ準備へ納付ノ区分ハ  
本省於テ決定セシ成規ニ從フヘシ

第四十六節

税外收入ノ納付期限ニ至リ未タ納  
付セサルハ主務ノ廳へ督促スル事

税外收入ノ納付期限ニ至リ未タ納付セサル  
アレハ書面ヲ以テ主務ノ廳へ督促ス

第四十七節

出納勘定帳及ヒ附屬簿冊用紙ノ事

勘定帳及ヒ明細表等ノ用紙正院ヨリ頒布ア

ル雛形第七号雛形如シニ違ヒ或ハ他紙ヲ用エル等

ノアレハ其帳簿ヲ該廳へ返却スルノ順序

ヲナス

第四十八節

勘定帳送致期限ニ至リ延期ヲ申請  
スルハ主務ノ事

勘定帳送致期限ニ至リ若シ事故アリテ整理

ニ至リカタキ其状ヲ具シ延期ヲ本省ニ申

請スルアレハ当寮之ヲ受領シ其申請已ムヲ

得サルモノニシテ之ヲ諒セハ即チ承認セシ

旨回答若シクハ指令按ヲ具シ御ノ決判ヲ請

ヒ之ヲ該廳へ達スルノ順序ヲ為ス

第四十九節

検査官派出ノ事

勘定帳簿上不明了ノ條多々アリテ推問スル  
モ事理明瞭ニ至ラサルカ或ハ會計上ニ於テ  
錯雜アルト思考セシ時ハ検査官負該廳ハ派  
出シ其計簿ヲ整理シテ達ニ決算ニ至ラシム  
其派出官負處務ノ制限ニ至テハ時ニ臨ンテ  
頭之ヲ令達ス

但第四節ヨリ第十節マテニ掲ケル各廳勘

定帳送致期限ヲ過キ未タ送致セサルアレ

ハ日限リヲ以テ督促シ尚其日限ヲ誤ルル

ハ本節ニ準シ察算ヲシテ派出セシム

第五十節

検査官派出スルノ際當時擔理スル勘定帳簿ハ同僚ニ交付スル也

本察官負他方ハ派出セントスルニ方リテ当  
時擔理セル所ノ勘定帳簿ハ調査正算ノ済否  
将来整理ノ胸算等詳細目錄ヲ付添シテ同僚  
ハ交付ス

第五十一節

勘定帳整理期限ノ事

各院省使府縣勘定帳ハ其帳簿ヲ受領シタル  
日ヨリ二十五日以内ニ調査正算完結ニ至ラ  
シムルヲ例トス

第五十二節

年度ヲ分ツテ勘定帳ヲ調査スル也

各廳ノ勘定帳ハ速ニ整理ニ至ルヲ要スルカ  
為メニ年度ヲ分ツテ之ヲ擔理セシム故ニ甲  
年ノ勘定帳精査了ラサルノ際本款第七節ニ  
掲ル如ク歳尾  
ノ勘定帳ハ各支廳ヲ同一ニ編入スルヲ以テ  
應速ノ地ニ支廳アル向ハ送致ノ期限ニ隨ヒ  
延期乙年ノ勘定帳ヲ送致スルノ期ニ至ル時  
ハ察員ヲ分ツテ之レヲ精理セシム偏ニ渋滞  
ノ弊ナキヲ要ス

第五十三節

非常ノ出費ヲ要スルノ件アリテ別  
ニ其勘定仕上ヲナスルノ度

非常夥多ノ出費ヲ要スルノ件アリテ別ニ其

精算勘仕上ケヲナスルハ臨時検査擔当ノ

員ニ命スルト雖モ其検査ノ方法ニ至テハ一

般勘定帳ヲ點檢スルノ方法ニ異ルナシ

第五十四節

勘定帳整理了テ検査官保證文ヲ記  
シ檢印ヲナス也

勘定帳ノ既ニ整理シ了ルモノハ其帳簿ノ餘  
白ニ勘定仕上相違ナキ旨保證文ヲ記シ検査  
頭及ヒ專掌セル検査官員ノ官姓名ヲ記シ書  
第八号雜而シテ漸次巡閱シ檢印了テ全ク清  
帳トス

第五十五節

勘定帳送致ノ有無ヲ并知スル也

勘定簿冊送致ノ有無ヲ辨知スル為ノ便宜一冊子ヲ設ケ時々此冊子ヲ點檢シ定期ニ到リ送致セサルアレハ第四十九節ニ掲ル順序ヲ以テ之ヲ督促シ強メテ遅延ノ弊ナキヲ要ス

第五十六節

勘定簿検査上ニ於テ緊要ナル記録ノ支

凡ソ勘定帳簿検査上ニ於テ緊要ナル定規成例及ヒ報告等ハ悉ク之ヲ蒐輯シテ検査ノ根據トス検査官タルモノ此記録ニ照準シ百般ノ出納ノ調査勘算シ苟モ差謬ナキヲ要ス

第六款

一般収出スル金穀ノ多寡ヲ詳悉シ決算ノ済否ヲ追調シ以テ追算表ヲ製スル事

第一節

租税寮ノ報告ニ照シ租税ノ納否ヲ勘算スル支

凡ソ收入ノ金穀ニシテ一般ノ租税ニ係ルモノハ租税寮ニテ調成スル毎三月毎一年ノ報告ニ即第三款ニ照シ其納否ヲ考檢シテ之ヲ調理勘査ス

第二節

租税外收入及ヒ一般支出ノ金穀追算簿ノ事

租税外ノ收入及ヒ一般支出スル金穀ハ傳票

ヲ付スルノ節々日計簿ニ記存スルモノナレ  
ハ即チ日計簿ヨリ其金算事由ヲ擬ヒ甲乙丙  
部ト準備トヲ分チ而シテ各廳ヲ別異シテ一  
帳冊ニ登録ス之ヲ追算簿ト云

第三節

追算簿ニ日計月計歳計ヲ作ル事

追算簿ハ其品類ニ應シ帳簿ヲ分チテ抄録シ  
以テ追算ノ根蒂トスヘキモノナレハ極メテ  
判明ナルヲ要ス而シテ其登録スル處ノ金穀  
ハ一廳母ニ日計ヲ作り一日間収出スル處ノ  
該額ヲ束子テ合計帳ニ登記シ日計簿ノ負數

ニ照合シ日ヲ重子テ月計ヲ作り月ヲ累子歳  
計ヲ作ルヘシ但日計簿ヨリ登載スルニ方リ  
謄録セシ吏算ノ小印ヲ負數ノ傍ラニ捺シ以  
テ之ヲ保證ス

第四節

追算簿ニ部門ヲ分ツ事

追算簿ハ一般出納ノ金穀ニ於テ各種ニ之ヲ  
類別シ毎一日日計簿ヨリ登録スヘキモノト  
ス即チ其部門ヲ設クル左ノ如シ

当用金穀追算簿

諸經費ノ部

官省

凡ソ二省ヲ併セテ一卷トシ通計六卷トス

使府縣

凡ソ一使府六縣ヲ併セテ一卷トシ通計十卷トス

此追算簿ハ官省使府縣ノ常費臨時費等一般歳入ヲ以テ其費途ニ充用スル為ノ抑ヒ出ス處ノ金穀ヲ此部中ニ區分登上スヘシ但甲部ニ属スルモノハ其年ノ簿

冊乙部ニ属スルモノハ前年簿冊ノ卷末一記入スヘキ事トス

税外收入ノ部

官省

凡ソ四省ヲ併セテ一卷トシ通計三卷トス

使府縣

凡ソ一使府十縣若シクハ十一縣ヲ併セテ一卷トシ通計五卷トス

此簿冊ハ官省使府縣ヨリ租税外ノ金穀

ヲ納入スルモノヲ存録ス甲乙兩部ヲ區  
分スル前ニ全シ

貸渡繰替及ヒ諸返納ノ部

官省

貸渡金ノ部一卷繰替金拂ノ部一卷繰  
替金償戻及ヒ常額金其他經費殘金還  
納ノ部一卷通計三卷トス

但貸渡金ノ返納ハ準備ニ納入スル  
ヲ以テ納ノ部ヲ設ケス

使府縣

前款ノ如ク區分シテ三卷宛トシ通計

六卷トス

此簿冊ハ一般貸渡ノ金穀并借入レ繰替  
拂并常額其他臨時費等ノ殘金アリテ償  
還スルモノヲ記入ス甲乙兩部ヲ區分ス  
ル前ニ全シ

交換金穀附誤納下戻ノ部

納ノ部 一卷

拂ノ部 一卷

此簿冊ハ米穀ヲ賣却シテ金ニ換ヘ金銀

大藏省



貨幣等ヲ洋銀ニ換ユルノ類然テ交換ニ  
属スルノ類ヲ記入シ若シ租稅其他ノモ  
ノニシテ納入ノ節名稱年度ヲ誤ル事ア  
リテ下戻ヲナスノ類モ亦此部ニ記入ス  
ハシ但甲乙兩部ヲ區分スル前ニ全シ

合計簿 納拂 一卷

此簿冊ハ日計簿ヨリ區分登錄スル處ノ  
負數ヲ合計シテ記入シ以テ日計簿ノ負  
數ニ照合スルノ便ニ供ス

準備金追算簿

諸經費ノ部

官省

凡ソ四省ヲ併セテ一卷トシ通計三卷  
トス

使府縣

凡一使府十縣若シクハ十一縣ヲ併セ  
テ一卷トシ通計五卷トス

此簿冊ハ前々年以前ノ諸經費及造幣鑿  
鑛其他一般ノ諸費ヲ拂出スモノヲ記入  
ス

收入ノ部

官省

三卷

使府縣

五卷

官省使府縣ヲ合付スル前ニ全シ

此簿冊ハ前々年已前ノ地租其他ノ收入

金穀ヲ記入ス

貸渡操替及ヒ諸返納ノ部

官省

貸渡金ノ部一卷操替金ノ部一卷貸渡

金返納ノ部一卷操替金償戻ノ部一卷

常額其他經費仕拂殘金返納ノ部一卷

通計五卷トス

使府縣

前件ノ如ク區分シ各二卷トシ通計十

卷トス

此簿冊ハ一般貸渡ノ金穀及ヒ返納金并

負債償却操替金拂同返納金等ノ部類ヲ

記入ス

交換金穀附誤納下戻ノ部

納ノ部

一卷

拂ノ部

一卷

此簿冊ハ米穀ヲ金ニ換ヘ金銀貨幣等ヲ  
 洋銀ニ換ヘ三類ト一類ト交換シニ類ト  
 四類ト交換スル等ノ類ヲ記入シ若シ地  
 租其他ノ金穀ヲ一旦納付シタルモ事故  
 アリテ戻下ス等ノ類ヲ記入ス  
 合計簿 納拂 一卷  
 記入ノ順序当用ノ簿冊ニ異ルナシ

第五節

追算簿ト出納寮ヨリ回付スル突合表ト  
 照査スル也

追算簿ニ登上スル處ノ収入支出ノ金穀ハ出

納寮ニテ調成スル毎一月ノ突合表ヲ回付ス

ルニ隨ヒ該算事由ヲ勘合シ抵牾註違ナキヲ

要ス

第六節

税外収入及ヒ經費ノ金穀決算ニ至ルモノハ  
 其算數ヲ追算簿ニ書載スル也

税外ノ収入及ヒ經費ノ金穀ハ毎一月毎三月  
 勘定帳ヲ製シ各廳ヨリ送達スヘキナレハ此  
 勘定帳精理了リテ収出金穀ノ既ニ結算ニ至  
 ルモノハ其算數ヲ追算簿ニ書載スヘキ事ト  
 ス

第七節

追算表ノ事

每一月収入支出スル處ノ金穀ハ既ニ結算ニ至ルモノト否ラザルモノトヲ此追算簿ニ就テ精査シ収入支出ヲ區分シ計表ニ葉ヲ製ス之ヲ追算表ト云此追算表ハ甲乙準備及各廳ニ関スル収入経費ヲ類別シ一目明瞭ナルヲ要ス

第八節 追算表進達期限ノ事

甲月間収出シタル金穀ハ乙月二十日ヲ期シ必ス追算表ヲ調成シテ卿ニ呈シ卿ノ一閱ヲ了スレハ本書ハ本寮ニ止ノ別ニ謄寫シテ以テ統計寮ニ送付ス

第九節 追算表書式体裁ノ事

追算表及ヒ追算簿ノ書式体裁ハ第九号雛形ニ詳ナリ

第七款

収入支出金穀ノ決算證書ヲ交付スル事

第一節

決算證書原由ノ事

元ソ金穀ヲ収入支出スル必ス其計簿ヲ検査セサルヲ得ス其計簿ヲ検査シ了テ決算違謬ナキヲ證スル為メ此決算證書ヲ交付スルモノトス

第二節

租税決算證書ヲ製スル事

収入ノ金穀ハ租税ト税外トヲ分ツテニトス其租税ニ属スルモノハ即チ第三款ニ掲ル如

ク租税寮ニテ調成ハル月報ヲ精査シ現収ノ  
金穀ハ決算済ノ證書ヲ製シ月報ト證書トニ  
頭ノ官印ヲ勘合シ以テ卿ニ呈シ卿官印ヲ捺  
シ本寮ニ付ス

第三節

租税決算證書ヲ租税寮ニ送致  
スル也

決算済ノ證書ハ卿調印了テ本寮ニ付スレハ  
則チ之ヲ租税寮ニ送致シ而シテ金穀現物ヲ  
納入セシ時々出納寮ヨリ交付シタル請取證  
書ハ之ヲ返致セシム

第四節 税外収入決算證書ノ事

税外収入ノ金穀モ其簿冊ヲ調成スルノ後決  
算済ノ證書ヲ作ル等ハ第二節第三節ニ異ル  
ナシ

第五節

租税并税外収入決算未済ノ證書ヲ出  
サシムル也

租税并税外収入トモ納額ノ既ニ決定シタル  
モノニシテ其内若干ヲ内納ニスルモノハ其  
残高ハ期月ヲ限り納入スヘキ歟或ハ追テ納  
入ルヘキノ旨ヲ證書ニ記載シ検査頭ノ名宛  
ヲ以テ差出サシム但此證書ヲ差出サシムル  
ハ決算證書ヲ交付スルノ時ニ於テスルヲ則

トス

第六節

収入決算済ノ證書ヲ交付スルハ各廳ヨリ返付スル出納寮ノ受取證書ヲ同寮ニ送致スル也

決算済ノ證書ヲ交付スル時各廳ヨリ本寮ニ返付スル出納寮ノ受取證書ハ毎月ヲ収束シテ之ヲ出納寮ニ返致ス

第七節

収入決算證書符号ノ事

収入決算證書ハ出納頭ヨリ租税頭又ハ國債頭又ハ各廳長官ハ宛タル領收ノ證書ヲ天号トシ検査頭ハ宛タル決算未済ノ證書ヲ納額定スルモノニシテ若干内納ニシ其残高ハ追テ收入スヘキ旨ヲ記載シタル證書ヲ云フ

人号トシ決算済ノ證書ヲ地号トス渾テ此證書ニハ番号ヲ符シ授受交換ニ便ニス

證書第  
十号離

如形  
シノ

第八節

出納寮ハ交付スル支出ノ決算證書ヲ製スル也

出納寮ニテ調成スル一般支出ノ勘定帳既ニ決算ニ至ルモノハ甲部乙部ト準備トテ區分シ決算證書ヲ製ス其雛形書式ノ如キハ第十一号ニ詳ナリ

第九節

一般支出ノ全額決算證書ヲ出納寮ニ交付スル也

前節ニ掲ル勘定帳ト決算證書トニ寮頭官印

ヲ勘合シ以テ御ニ呈ス御調印ノ後傳票課ニ付ス同課之ヲ受領シ而シテ決算證書ハ出納寮ニ付シ勘定帳ハ本寮ニ還送ス

第十節

各廳經費ノ決算證書ヲ交付スルモ

各廳經費勘定帳調査正算完結ニ至ルモノハ第三号ノ決算證書ヲ製シ御ニ呈スルノ順序ハ第八節第九節ニ掲ル如シト虽モ御調印ノ後直チニ本寮ニ受領スレハ勘定帳ハ本寮ニ止メ決算證書ハ主務ノ廳ニ交付ス

第十一節

各廳經費決算未済ノ證書ヲ出サシムルモ

各廳ニ交付スル所ノ金數其幾分ヲ決算シ幾分ハ未タ決算ニ至ラサルモ其決算ノ高ハ前節ノ順序ニ循テ決算證書ヲ交付シ未決算ノ高ハ他日決算スヘキ旨ヲ記載セシ第二号ノ證書ヲ検査頭ノ名宛ヲ以テ差出サシメ他日其残高ヲ決算セシメ猶残高アルモ漸次如此シテ完結ニ至ラシム

第十二節

各廳經費決算ノ額ヲ追算簿ニ登記スルモ

經費決算證書ヲ交付スルニ当リ其決算ノ正數及ヒ某年某月某日ニ於テ決算完結シタル



トヲ追算簿ニ詳記スルト第六款第三節ニ掲  
ル如シ

第十三節 全上

第十一節ニ掲ル如ク幾分ヲ決算シ幾分ハ未  
タ決算ニ至ラサル片若干ハ某年某月某日ニ  
於テ決算シ若干ハ決算未済ナルトヲ詳ニ追  
算簿ニ登記スルヲ要ス

第十四節

各廳經費決算證書ヲ交付スルハ受取證  
書及ヒ決算未済ノ證書ヲ還付スル也

經費決算證書ハ曩ニ其金穀ヲ各廳ニ交付ス  
ルトキ出納頭ノ名宛ヲ以テ差出シタル第一  
号ノ受取證書若シクハ決算未済ノモノニシ  
テ検査頭ノ名宛ヲ以テ差出シタル第二号ノ  
證書ト共ニ其主任ニ還付ス

第十五節

各廳經費決算證書等符号ノ更

一切支出ノ金穀ハ出納頭ノ名宛ヲ以テ差出  
シタル受取證書ヲ第一号トシ未決算ノ証書  
ヲ第二号トシ決算済ノ証書ヲ第三号トシ渾  
テ此證書ニハ番号ヲ符シ授受交換ニ便ニス  
證書第十二号  
離形ノ如シ

第十六節

一般収入支出ノ決算證書ヲ交付スルニ當リ其交  
付スヘモ皆ヲ主務ノ官廳ニ通知スル也

収入支出決算證書ヲ交付スルニ当リ寮頭ノ  
名ヲ以テ先ツ其交付スヘキ旨ヲ主務ノ官廳  
ヘ通知シ受取人ヲ出サシメテ後ニ証書ヲ交  
付スヘシ若シ未決算ノ額アラハ其決算未済  
ノ證書ヲ出サシムルモ亦同時ニ於テス

第十七節

一般収入支出決算證書ヲ交付スルニ方  
リ受領ノ証ヲ徴スルモ

此證書ヲ交付スルニ当リ主任領収ノ證ヲ徴  
サ、ルヲ得ス故ニ豫テ簿冊ヲ装釘シ收入ハ  
天号地  
号人号ト区分シ支出ハ其交付スルニ当リ月  
一号ニ号三号ト区分ス  
目ト證書ノ符号トヲ詳記シ受取人ヲシテ記

名調印セシム帳簿書式第十  
三号雜形ノ如シ

第八款

一切收入経費ノ金穀調査正算完結ニ至ルモノ  
ニ就テ明細表ヲ調整フル事

第一節

收入支出明細表原由ノ事

元ノ收入支出ノ明細表ハ勘定帳簿検査上ニ  
於テ毫モ謬違ナキヲ保證シ且收入及ヒ支出  
ノ額ヲシテ一目瞭然タラシメシメシカ為メ各院  
省使府縣勘定帳ノ既ニ調査正算完結ニ至ル  
モノニ就テ之ヲ精製シテ正院及ヒ大藏卿ニ  
進達スルモノトス

第二節

經費明細表調製ノ事

經費明細表ハ各廳勘定帳諸般ノ順序ヲ經全ク清帳ニ歸セシモノヲ以テ常用準備ヲ始メ常費臨時費及ヒ常額内外ヲ区分シ費目ヲ概別シ而シテ前月ヨリ越高本月ノ元受高拂高残高等ヲ詳明ニシ官省使府縣各別表トシ第十四号雛形ニ準據シテ之ヲ製調ス

第三節

收入明細表調製ノ事

收入明細表ハ租稅寮報告及ヒ各廳稅外收入勘定帳諸般ノ順序ヲ經全ク清帳ニ歸セシモノヲ以テ甲部乙部準備ヲ区分シ收入ノ名目ヲ明カニシ官省使府縣ヲ併セテ一表トシ第十五号雛形ニ準シ之ヲ製調ス

第四節

明細表ヲ製スル先ツ下帳ト下表トヲ調整スル事

明細表ヲ製スル先ツ勘定帳ヨリ類聚枝萃シテ下帳ト下表トヲ製シ稽查勘算違謬ナキヲ保シ而シテ淨書ニ付ス

第五節

明細表ハ四葉ヲ要スル事

明細表ハ常ニ四葉ヲ製スルヲ要ス其一葉ハ本察ニ止メ其一葉ハ勘定帳及ヒ内譯帳ト共

二 卿ニ呈シ而シテ他ノ二葉ハ正院ニ上達ス

第六節 明細表調成期限ノ度

明細表調成ノ期限ハ勘定帳等全ク清整ニ歸シ始メテ其帳簿ヲ受領セシ日ヨリ凡ソ十五日間ヲ定度トス

第七節

一歳ノ支出及ニ税外收入合計表並ニ總計表ヲ調成スル度

翌年ニ至リ前年々々末ノ官省東京府ハ六月分使府縣ハ四月ヨリ六

ヶ月分 明細表調製完結ニ至ルヲ待テ第十

六号雜形ニ準據シ官省使府縣限リ前一歳ノ

經費合計表ヲ調製シ又之ヲ總括共計シテ第

十七号雜形ノ如ク總計表各廉前一歳ノ經費ヲ總計シタルモノ

リヲ製シ共ニ正院及ヒ卿ニ進達ス第五節ニ揭ル如ク

各四葉ヲ製スルヲ要ス

但收入合計表及ヒ總計表共調成ノ順序本

文ニ異ルナシ

第九款

造幣鑿鑄製糸製作鐵道電信其他總テ殖益收入  
アル事業ニ関スルモノ其費用ト收入トノ計數  
比較表ヲ勘査スル事

第一節 比較表原由及ヒ送致期限ノ更

凡ソ増殖收入アル事業ニ関スルモノハ其資  
用ト收入トノ金額ヲ比較勘査セサルハカラ  
ス故ニ費用收入判明ナル比較表ヲ製シ每三  
ケ月ヲ區分シ翌月二十日限り各廳ヨリ送致  
セシムルモノトス

第二節 比較表書式体裁ノ事

此比較表ハ各事業ニ因テ其体裁一樣ナラス  
其調製ノ方法ハ第十八号雛形ニ詳悉スレハ  
爰ニ贅セス

第三節 比較表調査ノ事

比較表ヲ送致スレハ表中費用ノ金額ハ經費  
勘定帳收入ノ金額ハ税外收入勘定帳ノ内各  
其金額ニ照シテ差違ナキヤ否ヲ調査勘算ス

第四節 合計比較表ヲ調製上達スル事

費用收入ノ金額差異ナケレハ其比較表ヲ根  
據トシ第十九号雛形ノ如ク各事業費用收入  
ノ金額合計比較表ヲ製調シ御及ヒ正院ニ上  
達ス

伍各廳ヨリ送達スル比較表ハ合計比較表  
ニ付添シテ御ニ上呈ス御展閱ノ上之ヲ当  
察ニ止ム

第五節 一周年總計比較表ヲ調製スル事

毎三ヶ月ノ比較表一周年ノ分全備スルニ至  
テ第二十号雛形ノ如ク各事業一周年費用収  
入ノ金額總計比較表ヲ調製シ御及ヒ正院ニ

上達ス

第十款

各廳備品ヲ始メ諸物品有テ高帳ヲ調査スル事

第一節

物品有テ高帳原由及ヒ送致期限ノ定

凡ソ各廳所有ノ機械書籍木石其他日用ノ薪  
 炭筆墨紙等一切ノ物品ハ元高及ヒ消耗高残  
 高等ヲ證明スル為メ毎半々年ヲ區分シ第二  
 十一号雜形ニ準據シテ有高帳ヲ製シ前半々  
 年分ハ一月二十日後半々年分ハ七月二十日  
 限リ該地ヲ發遣シテ本省ニ送致スルモノト  
 ス



第二節

物品有高帳ハ概テ其物品ヲ類別シテ別冊ニ調成スル也

物品有高帳ハ概テ其物品ヲ類別警ハハ器械書籍木石等

ノヲ分ツ調成シテ送致スルヲ例トス

第三節

物品有高帳ニハ其物品ノ代價ヲ記載スル也

物品有高帳ニハ其物品ノ代價ヲ記載シ而シ

テ其代價ニ於ル該廳定額金ヲ以テ供給セシ

歟或ハ額外ノ出費ナル歟ヲ區分セシム

第四節

物品有高帳ヲ調査勘算スル也

物品有高帳ハ精密ニ調査勘算シテ差謬ナキ

ヲ保證シ而シテ之ヲ御ニ呈シ御一閱了テ本

寮ニ存置ス

第十一款

定額アル金穀ヲ支給スル事

第一節

定額金穀ノ原由ノ事

凡ソ定額ト名ケタル金穀ハ各廳ヨリ送付ス  
ル經費ノ概算ニ據リ歳入金穀ノ多寡ニ比照  
具サニ評量参査シテ以テ一歳支給スヘキノ  
該額ヲ確定スルモノナレハ其實費ヲシテ該  
額ヲ超過セシメサルヲ則トス

第二節

定額金ヲ支給スル正院ノ達書ニ拠テ  
當否ヲ参査スル事

各廳ノ定額金ハ第一款ニ掲ル如ク毎歳正院

ニ於テ之ヲ議定シ金額及ヒ其内譯ヲ詳記シ  
タル簿冊ヲ併セテ本省ニ達ス本省之ヲ當察  
ニ下付スルヲ則トス故ニ定額金ヲ支給スル  
常ニ此簿冊ニ照シテ其當否ヲ審査スルヲ要  
ス

但事故アリテ定額金ヲ増減スルヲアレハ  
其金額及ヒ内譯等本文ノ順序ヲ以テ當察  
ニ達スルヲ例トス

第三節

事業ニ関スル經費目途金ノ支

堤防建築其他總テ工業ニ関スル經費ハ一歲

支給スヘキ目途ノ金額ヲ各專掌ノ諸省ニ文  
付ス而シテ正院於テハ每歲支給スヘキノ額  
ヲ議定シ及ヒ内譯等ヲ本省ニ達スル等ノ順  
序ハ總テ前節ニ異ルナシ

第四節

各院省及ヒ東京府定額金穀交付  
期限ノ事

各院省及ヒ東京府定額金ハ一歲ノ金額ヲ十  
ニケ月ニ分賦シ毎月二十二日ヨリ二十五日  
マテニ之ヲ交付ス 宮内省定額米  
モ本文ニ全シ

第五節

全上

毎月分賦ノ金算ハ百位ニ止メ而シテ拾位以

下ノ端數ハ六月ニ至リ一總共計シテ之ヲ交  
付ス 宮内省定額米  
ハ石位ニ止ム

### 第六節

各院省所轄支廳分局へ回送スル定額金操上ケ渡ノ事

各地方所在ノ各鎮臺學校鑛山電信鐵道ヲ始  
メ各院省總テノ支廳分局等へ回送スル定額  
金ハ距離ノ遠近ヲ量リ定額金操上ケ渡ノ期  
限ヲ概定スル左ノ如シ

但海軍艦内ノ經費定額金ノ交付モ本文ニ  
準ス

一 五十里以内ノ地ニアル支廳分局ハ本廳ノ

定額金交付ノ期限ト異ルヲナシ

一 五十里外二百里マテノ地ニアル支廳分局

ハ本月ノ定額金前月十日マテニ各其本廳

へ交付ス

一 二百里外五百里マテノ地ニアル支廳分局

ハ本月ノ定額金前々月十日マテニ各其本

廳へ交付ス

### 第七節

各院省及ヒ東京府定額金穀交付ノ順序

各院省及ヒ東京府定額金ヲ交付スルノ順序

左ノ如シ 宮内省定額米交付ノ順序  
モ本文ニ異ルナシ

第一 各院省及ヒ東京府ヨリ定額金ノ文

付ヲ請求スルノ申牒及ヒ受取方達

書第二十二号如シヲ送致スレハ先ツ其

申請ノ額相当ナルヤ否ヲ本額ニ照

查ス

第二 申請ノ額相当ナレハ之レニ(正)印ヲ

捺シ而シテ其申牒ニ管主ノ者捺印

シ受取方達書ヲ添テ頭ニ出ス頭捺

印了テ其交付スヘキ金額及ヒ月日

ヲ定額簿ニ鈔録シ其簿冊ト受取方

達書トノ金額ニ(調査)ノ印ヲ勘合シ

了テ傳票ノ順序ヲナサシム

第三 申牒ノミヲ送致シ受取方達書ヲ付

シ来ラサルモノハ則チ之ヲ可差出

トノ達書用紙第二十三号離形ノ如シハ其金額ヲ

登記シ申牒ト達書トノ金額ハ寮頭

勘合ノ印ヲ捺シ其達書ヲ主任ノ院

省等へ送達ス

第四 前項ノ達ニ因テ主任ノ院省等受取

方達書ヲ回送スレハ第二項ノ順序

ニ從テ傳票ノ順序ヲナサシム

第五 若シ申請ノ額相当ナラサルモノハ

其回答案ヲ具シ卿ノ名ヲ以テ之ヲ

其院省等へ達ス

第六 省中ノ寮局ニ關係スルモノハ其寮

局ニ回議ス

第七 準備金ヨリ支出スルモノハ回議了

テ金額事由等帳記ノ為ノ再ヒ國債

寮ニ付ス同寮帳記シテ本寮ニ還

付スレハ即チ第二項ノ順序ヲナサ

シム

### 第八節

定額金ノ交付事故アリテ成規ニ異ルモノ  
アルハ其考案ヲ具スル等ノ事

定額金交付ノ順序ハ第七節ニ掲ル如シト虽

モ事故アリテ交付ノ期限等成規ニ異ルモノ

ハ考案ヲ具シ卿ノ決裁ヲ經サレハ一切交付

セサルトトス

### 第九節

公使領事館經費定額金交付  
期限ノ事

海外派出我公使領事館ノ經費定額金前半額

ハ前年三月中ニ後半額ハ本年九月中ニ之ヲ

外務省ニ交付シ各館ニ送致セシムルヲ例ト

ス

第十節

全權大使ヲ派遣セラル、片臨時月  
予當ヲ交付スル事

全權大使節ヲ派遣セラル、片ハ定則ノ日當  
ヲ止ノ月予當ヲ支給スル、アルヘシ如此ハ  
臨時正院ノ命令ニ從テ支給スルモトス

第十一節

理事官或ハ視察等ニテ海外臨時派出ヲ命セ  
ラル、モノハ支度料及ヒ日當等ヲ交付スル事

理事官或ハ視察等ニテ臨時派出ヲ命セラル  
、モノ日當及ヒ支度料共定額ノ通支給シ賄  
料其他ノ公費ハ概計ヲ以テ假ニ支給シ追テ  
精算セシムルヲ例トス

第十二節

各官負海外派出ヲ命セラル、時其人各事由等正院  
令達ヲ受領セシ上月俸及ヒ其他ノ費用ヲ交付スル事

凡ソ各官負海外臨時派出ヲ命セラル、時ハ  
其人各事由ト正院ヨリ本省ニ知達シ本  
省之ヲ當寮ニ授付スルヲ例トス故ニ此達書  
ヲ受領セシ上月給旅費其他ノ費用ハ成規ト  
定額トニ照査シテ之ヲ交付ス

第十三節

海外行旅ノ費用ヲ給スル正院ノ達書及ヒ各廳  
ノ稟申ニ準據スル事

第十節ヨリ第十二節ニ掲ル如キノ費用ハ正  
院ヨリノ達書若シクハ各廳ノ稟申ヲ受付ス  
ルニ隨ヒ每件規格ニ照シテ精密ニ調理勘算

大藏省

シ差違ナキヲ保シテ交付ノ順序ヲナス

第十四節 開拓使定額金原由并交付期限ノ事

開拓使ノ定額金ハ明治ニ己巳年ニ於テ始テ之レカ基礎ヲ立テ同三庚午年ニ於テ之ヲ創定シ同五壬申年再ヒ該額ヲ確定シ同年ヨリ十ヶ年間ヲ期シ此他同使管内ニテ徴収スル諸租稅ヲ供セラ經費ニ充ツ之ヲ交付スルノ期限ハ一歳ノ金額ヲ折半シ其半額ハ前年四月半額ハ其年十月トシ諸稅ハ後節ニ掲ル順序ヲ經テ之ヲ交付スルヲ例規トス

第十五節 開拓使徵收ノ租稅等經費ノ内ニ交付スル事

開拓使庚午年定額金定立以前ニ興ル租稅其他稅外收入ノ金穀等ハ每三ヶ月ヲ束子テ之ヲ本省ニ收入シ其金穀ハ經費ニ充用スル為メ更ニ同使ヘ交付スルヲ例トス

但庚午年以後ニ興ル新稅ハ本使ノ經費ニ支給セサルヲ例規トシ駐贖金ハ司法省ヲ經テ收入シ而シテ本文ノ順序ヲナス

第十六節 定額金交付順序ノ事

開拓使定額金ヲ交付スルハ第七節ノ順序ニ

大藏省



異ルナシ

但第十五節ニ掲載スル租税等ヲ經費ノ内  
ヘ交付スルキハ其請求ノ額ト租税其他ノ  
納額ト相当スルヤ否ヲ主管ノ寮局ニ照會  
シ相当ナルモノハ本文ノ順序ヲナス

第十七節

開拓使各支廳ノ定額金回送ノ長

開拓使所轄各支廳ノ經費ハ各其距離ノ遠近  
ヲ量リテ支派回金シ勘定帳調成ノ期ヲ愆ル  
ナカラシメンヲ要ス

第十八節

各府縣定額金交付期限ノ事

各府縣ノ定額金ハ本年ノ額ヲ前年四月中ニ  
受取方ヲ申請シ其半額ハ前年五月中ニ交付  
シ残余ノ半額ハ本年十月中ニ申請シ十一月  
ニ至テ之ヲ交付スルヲ則トス

第十九節

各府縣定額金ヲ交付スル順序ノ事

各府縣ノ定額金ヲ受取ルヘキ申請アレハ第  
二節ニ掲ル内譯簿ト照査シテ当否計數ヲ調  
理勘算シ相当ト認めル時ハ預ケ米金預ケ米  
納寮ノ專理スル處ニシテ租税ノ金穀ヲ一旦  
上納シ其金額ヲ出納寮ヨリ各廳ヘ預ケ置諸  
經費ニ充用スノ内ヲ以テ交付ノ順序ヲナス

但稟申ノ額相当ナラサルモノハ本款第七節ノ五項ニ照準シテ之ヲ處弁ス

第二十節 府縣ニ豫備金ヲ置ク事

京阪二府各縣豫備金ハ初頭交付ノ順序ハ定額金ニ異ルナシト虽モ以後ハ毎歳之ヲ各廳ニ備置ヲ成規トス

第二十一節 定額金ヲ定期以前ニ交付スル事

定額金ノ内事業ノ緩急ニ因リ定期以前ニ交付スルノ如キハ正院ノ許可ナケレハ應付スヘカラス若シ其許可ヲ得ルモノハ第八節ニ

順序ニ據テ之ヲ交付ス

第二十二節

各院省使府縣其他一般ノ定額金交付ノ定期ニ至リホク請求セサルアレハ之ヲ該廳ニ督促スル事

各院省使府縣其他一般ノ定額金交付ノ定期アルモノ其定期ニ至リ未タ交付ヲ請求セサルキハ乃チ該廳ニ督促スルヲ要ス

第二十三節

定額アル費用ヲ交付ノ際調査勘算ノ時日ヲ限ル事

凡ソ定額アル費用ヲ交付スル強メテ遲滞ノ弊ナキヲ要ス故ニ各廳需要ノ緩急ヲ辨知シ至務ノ負其請求書ヲ查收スルノ日ヨリ七日間ヲ出テスシテ調査勘算シ了ルヲ則トス若

シ夫レ事故アリテ限日内精整ニ至ラサルモ  
ノハ必ズ其由ヲ具陳ス

第二十四節 定額簿ノ支

以上各節ニ掲ル一切定額アル費用ハ一歳文  
付スヘキ額ト毎月交付セシ額ト将来交付ス  
スヘキ額トヲ明瞭ナラシムルカ為ノ定額簿ヲ  
編製シ第二十四号雛形ニ倣ヒ日々交付ノ金  
穀ヲ詳記シ每一ヶ月之ヲ通計シテ誤脱ナキヲ要ス

第二十五節

定額アル費用交付ノ既済未済ヲ詳明  
ニシ月報表ヲ製スル也

前節ニ掲ル一切定額アル費用ハ交付ノ既済

未済ヲ詳明シ院省使ト府縣トヲ分テ第二  
十四号雛形ニ準シ月報表ヲ製シ之ヲ卿ニ呈  
ス

第二十六節

各廳額外ノ費用モ經費内説明細  
簿ニ準據スル也

各廳額外ノ常費モ一歳支給スヘキノ該額ハ  
内詳明細簿ニ連スルハ本款第二節ニ掲ル定  
額ニ詳明ナレハ此費途ヲ交付スル常ニ此  
簿冊ヲ以テ根基トス

第二十七節

定額外ノ經費ハ時々ノ稟申ニ應シ  
交付スヘキ也

額外ノ經費ハ各廳事業ノ緩急ニ隨ヒ不特ニ

稟請スルモノニシテ素ヨリ定額ノ期節ヲ逐  
テ交付スヘキカ如キニアラス故ニ此稟申ア  
ル時ハ至務ノ各寮ニテ議案ヲ作り卿ノ決裁  
ヲ經テ交付スヘシトイヘ此際ニ方リテハ  
常ニ各廳ノ經費内譯明細簿ニ準據シテ金額  
ノ程度ヲ照查スルヲ例トス

但各府縣額外常費ノ内棄兒養育米等ノ如  
キハ各廳ノ請求ニ應シ定額ト全シク本寮  
ニテ擔理シ半ケ年ツ、ヲ支給スル事トス

第二十八節

各府縣豫備ノ操替金ヲ交付スル順序ノ定

各府縣經費ノ内内務省所管ノ罹災救助及  
窮民救助孝子義僕節婦等ノ賞賜金等ハ其廳  
ノ申請ニ寄リ豫備金ノ内ヲ以テ操替置取束  
大蔵省へ請求スヘキヲ指令シ決議簿冊ニ一  
類一類ノ連書ハ第二十  
五号離形ニ詳ナリノ連書ヲ付シ本省ニ  
送致シ之ヲ本寮ニ受クレハ此書冊ニ就テ金  
算事項ヲ豫備操替元帳此元帳ハ豫備金ヲ以  
テ操替置クヘキ旨ヲ  
指令シタル後受取方ヲ申請スルアレハ此簿  
冊ト照查シ当否ヲ勘合スル為メ檢査寮ニテ  
製成スルフニ詳記シ通知書ト元帳トニ調査  
簿冊ヲ云フニ  
印ヲ勘合シテ通知書ハ本寮ニ止メ決議簿

冊ハ本省ヲ經テ内務省ニ送致シ示後各廳ヨ  
リ受取方ヲ請求スル時ハ此元帳ト照査シテ  
交付ノ順序ヲナス

但本省所管ノモノニシテ豫備金操替ノ指  
令ヲナス片ハ其金算事項ヲ元帳ニ記入ス  
ル等總テ本文ノ順序ニ照準ス

### 第二十九節

臨時費用ノ經費ヲ交付スル  
順序ノ定

臨時費用ノ金穀ヲ交付スル本省所管ノモノ  
ハ主務ノ該寮ニテ諸般ノ順序ヲ了シ卿ノ名  
ヲ以テ本寮頭ニ充タル達書ヲ添ハ本寮ニ付

スルヲ定規トス而シテ此達書ヲ本寮ニ交付  
スレハ該算事款ヲ經費内説明細薄ト照査シ  
交付ノ順序ヲナス

但内務省所管ノモノハ決判済ノ上二類<sub>第二</sub>  
十五号雜  
形ノ如シノ達書ヲ添ハ本省ニ回付スルハ

### 第二十八節ニ全シ

### 第三十節

一歳經費目途金ノ皆拂ニ至ル時處分ノ定

凡ソ各廳ノ經費ニシテ其年支給スヘキノ額  
ハ其廳ノ經費内説明細薄ニ詳悉シ支給済リ  
額ハ日ヲ逐フテ經費追調簿ニ詳記スルモノ

ナレハ常ニ此追調簿ニ準據シテ猶殘額アル  
ヤ否ヲ點檢シ該額ノ皆拂ニ至ルモノハ速ニ  
其旨ヲ卿ニ申達シ示後更ニ正院ヨリ達シア  
ラサレハ支給スルノ理ナカルヘシ

第十二款

各廳或ハ人民ハ貸附スル金穀ヲ精理シ至務ノ  
該課ニ對シ督促返付セシムル事

第一節

貸附金穀ノ算數ヲ日計簿ニ登記スル事

凡ソ各廳或ハ人民ハ貸附スヘキノ金穀ハ其  
情願事由ヲ精紀シ本省所管ノモノハ部内ノ  
寮司内務省所管ハ同省部内ノ寮司等ニテ調  
理整頓シ卿ノ決議ヲ經ルノ議案簿冊等ヲ本  
寮ニ回致スレハ其金額事由ヲ日計簿ニ登上  
一傳票ノ順序ヲナスハ第十五款ニ掲ルカ如

第二節

貸附金穀ヲ納付スル件ノ事

納付ノ金穀ニシテ年賦月賦又ハ一時貸付ヒシモノ等期節ヲ逐ヒ還納スルモノハ主務ノ該課ヨリ仕出書ヲ以テ本寮ニ付シ寮頭ノ檢印ヲ了シ直チニ傳票ノ順序ヲ要ス

第三節

各廉ヨリ送致スル貸付金穀勘定帳ハ追算簿ト照査スル事

一般貸渡ノ金穀及ヒ返納金ハ明治六年第四百二十七号同七年第四百七十七号ヲ以テ公布アリシ雛形ニ照シ勘定帳ヲ作シ每一月毎三月

各廉ヨリ送致スハキナレハ共帳簿ヲ執テ追算簿ニ照合シテ金穀ノ算數ヲ清查勘算スヘキ事トス

第四節

主務ノ寮ヨリ送付スル貸附金穀月報ヲ追算簿ニ照査シテ統計寮ニ送致スル事

貸渡及ヒ返納ノ金穀ハ主務ノ該寮ニテ毎月三  
月報告ヲ第二十六号雛形ノ如シ製シテ以テ卿ニ呈シ其  
閱覽ヲ經ルノ後本寮ニ接受スレハ及テ該算  
ヲ追算簿ニ照合シ其差異ナキハ寮頭ノ檢印  
ヲ經テ之ヲ統計寮ニ送付ス

第十三款

各廳ニ交付スル每一歳ノ定額其他一切經費金  
穀ノ歳尾ニ至リ残餘アルモノハ之ヲ還納セシ  
ムル事

第一節

歳費ノ残餘ハ其勘定完結ニ至ルヲ待テ  
還納セシムル事

院省府縣一歳ノ經費ニ於ル第一款ニ掲ル如  
ク前年歳尾ニ於テ翌年一歳ノ該額ヲ擬定シ  
次ヲ逐テ交付スルモノナレハ各廳ニテ一歳  
ノ經費勘定ヲ完結スルノ後既ニ交付シタル  
金穀ノ残餘アルモノハ還納セシムルヲ則ト



第二節

中仕切ヲ以テ決算ナシ難キモノハ翌年ノ越高ニ加算スル也

歳尾ニ至リ一歳経費ノ勘定ヲ整頓スルニ方  
リ其頭金ハ既ニ拂出アルモ其年内ニ中仕切  
ヲ以テ成算完結ナシ難キモノハ其事由顛末  
ヲ稟申シ未決算ノ金額ヲ調成シ其旨趣ヲ稟  
申スルハ明治七年十一月第百四十  
四号布達ノ離形ニ  
撥ルハキモノトス許可ヲ経テ翌年ニ至リ精  
算スヘキ金額ヲ除クノ外ハ一切納付セシム  
ヘキ事トス

第三節

残餘ノ金額ハ勘定帳決算完結ニ至ラサルモ先ツ  
概計ヲ以テ還付セシムル也

残餘ノ金額ハ周年経費ノ決算完結ニ至ルヲ  
俟ツテ返付セシムヘキモノト虽其残額ハ  
歳尾ノ勘定帳ニ於テ既ニ判明ナレハ勘定帳  
ヲ調理セサル前ト虽其概算ヲ以テ残餘ヲ返  
付セシムルハ明治七年三月大蔵省第二十五  
号ノ布達ニ照準ス

第四節

残餘ノ金額還納ノ儀ヲ稟申スル片之ヲ調  
査シテ納付ノ順序ヲナス也

残餘ノ金額ヲ還納セントシテ其旨ヲ各廳ヨ  
リ照管稟申スルアレハ歳尾ノ勘定帳ニ照シ  
該額ヲ査訂シ納付セシムルノ議案指令若シ

大 藏 省  
ケハ回答案ヲ作り卿ノ決印ヲ経テ該廳ニ申  
達シ傳票ノ順序ヲナサシム

第十四款

金穀出納ニ関スル回議冊等ノ正算ヲ経ハキハ  
之ヲ正算シテ其差謬ナキヲ保スル事

第一節

金穀出納ニ関スル議案冊子ヲ誓查勘  
算スル事

凡ソ成規定例アル金穀ノ出納ニ関スル議案  
簿冊ノ正算スヘキヲ各寮局課ヨリ回致スル  
アレハ例規ニ照シテ誓查勘算シ立議確當ニ  
シテ計數ノ差異ナキモノハ算數ノ下面ニ正  
印ヲ捺シ專理勘算セシ吏算ノ小印ヲ加押シ  
以テ之ヲ保證ス

第二節

收入支出ノ金穀ハ貨幣ノ種類甲部乙部準備ト預ケ場所等ヲ区分スル事

收入支出ノ金穀ハ必ス貨幣各種ノ品目ト甲乙丙部ノ金穀ト準備金穀ト東京大坂横濱三所銀行ノ預ケ場所トヲ区分スヘキヲ程規トス但支出金穀ノ品類及預場所ヲ區畫スルハ理財課傳票掛ノ專理スル處ナレトモ税外收入ノ金穀ハ回議簿冊ニ其種類預場所ヲ掲載スヘキヲ定規トスレハ若シ其簿冊ニ種類等ノ記載ナキ時ハ主務ノ寮局ニ返付シテ之ヲ精理セシム

第三節

米穀ヲ金貨ニ換ヘテ收出スル其米穀ノ相場ヲ相場帳ニ照看スル事

米穀ヲ代價ニテ收出スヘキモノハ貢納相場ヲ用エルアリ下米相場ヲ用エルアリ或ハ浅草倉庫ノ平均相場ヲ用エルアリ貢納相場及ヒ下米相場ハ租税寮倉庫相場ハ出納寮ニテ各其計數ヲ勘査シ以テ回付スルモノナレハ其簿冊ヨリ謄寫シテ以テ帳簿ニ録ス之ヲ相場帳ト稱シ以テ照看ニ供ス

第四節 貢納相場或ハ下米相場等ヲ用ユル科目ノ事

貢納相場及ヒ下米相場等ヲ用エルノ区分ハ

左ノ科目ニ照準スヘシ但此科目ハ現今ノ成規ヲ以テ掲載セシモノナレハ猶時々ノ布達ニ寄り變更アルハキモノトス

貢納相場ノ部

家祿

賞典祿

社寺逋減祿

終身扶持

渡月前月ノ下米平均相場ヲ用ユルノ部

救助米

棄兒養育米

前年十月一日ヨリ十一月十五日マテ日々

下米平均相場ヲ用ユルノ部

夫食米

### 第五節

回議冊ニ名代相場ノ記載アルモノハ其石代ノ下面ニ捺字ノ印ヲ捺スル也

収入支出ノ回議簿冊等ニ名代相場ノ記載アルモノハ相場帳ニ照準シ石代ノ下面ニ捺字ノ印ヲ捺用シ以テ其差異ナキヲ證ス

### 第六節

全穀出納ノ回議冊ニ甲部乙部準備ト納拂トヲ区分シテ押印ヲ為ス也

回議簿冊ノ勘算精理ヲ經テ其差異ナキモノハ常用甲部ヨリ支出スルハ(千支甲部拂)乙部

ハ(千支乙部拂)甲部ノ納入ハ(千支甲部納)乙部  
ハ(千支乙部納)ノ印ヲ捺シ準備ノ収出ハ(準備  
拂)準備納)ノ印ヲ押シテ以テ之ヲ支別ス

### 第七節

臨時金穀ノ収出ハ正算ヲ要セサル也

臨時金穀ノ収入支出ヲ要スル回議簿冊ノ如  
キハ主任ノ各寮局課ニテ調理正算シ指令其  
他諸般ノ順序ヲ了シテ卿ノ名ヲ以テ本寮頭  
ニ宛タル達書ヲ添へ以テ本寮ニ接受スルモ  
ノナレハ回議面ノ金負ト達書ノ金負トニ照  
査ノ印ヲ勘合シ擔任スル寮員ノ小印ヲ加押  
シ頭ノ檢印ヲ經ルノミニシテ別ニ本寮ノ正  
算ヲ要セス

### 第八節

計算例則ノ事

凡ソ金穀ノ計算ヲ正理スルハ其時々規則定  
例ニ準據スヘキヲ以テ凡ソ算則ニ関スル例  
規等ハ編算シテ一簿冊トシ以テ正算擔任ノ  
各課ニ備ヘテ其照看ニ供ス

第十五款

出納金穀ノ傳票ニ付スルモノヲ簿記シテ之ヲ保存スル事

第一節

全穀ヲ出納スヘキ回議冊子ニ(要傳票)ノ印ヲ捺シテ本寮ニ送付スル事

凡ソ成規定例アル金穀ノ出納ヲ要スル時ハ各廳ヨリ稟申スル旨趣ニ寄り擔任ノ寮局ニテ指令若シクハ回答ヲ作り正院或ハ卿ノ決裁ヲ經百般ノ順序ヲ了シテ回議冊子等ニ(要傳票)ノ印ヲ捺シ以テ本寮ニ付スルヲ則トス

第二節

臨時金穀ノ出納ハ卿ノ達書ヲ以テ傳票ノ順序ヲナス事

臨時金穀ノ出納ヲ要スルモノハ第十四款第七節ニ掲ル如ク決議簿冊ニ卿ノ達書ヲ付スルモノニシテ此達書ヲ本寮ニ接受シ寮頭ノ檢印ヲ了スルニ隨ヒ直ニ回議原書ニ記載スル金算ニ檢證ノ印ヲ勘合シテ原書ヲ理財課傳票掛ニ送致シ達書ハ本寮ニ止メ傳票送致ノ番号ヲ記入シ逐次編綴シテ後證ニ供ス

第三節

定額金穀等ハ傳票達書ヲ以テ出納ノ順序ヲナス

定額金若シクハ月給旅費等ノ類ニテ成規確定アルモノハ卿ノ決判ヲ經ス至務寮局ニテ成規

ニ照シ勘査調成シ該寮頭ノ檢印ヲ經ルモノハ傳票達書ヲ以テ其金穀ヲ出納スルヲ程度トス

但傳票達書ハ券二十二号雛形ニ詳ナリ

第四節

(要傳票)ノ押印ナキカ傳票達書等ヲ付添セサルキ之ヲ再調セシムル事

以上三節ノ如クナレハ凡ソ傳票ニ付スルノ金穀ハ卿ノ達書ヲ添サルカ或ハ(要傳票)ノ押印ナキカ傳票達書ヲ添付セサルハ順序ノ未ダ整ハサルモノトシ至務ノ寮局ニ返致シテ更ニ再調セシム

第五節

内務省掌管ノ事務ニシテ成規アル金穀ノ傳票ヲ要スル時ノ支

内務省掌管ノ事務ニシテ各廳ヨリノ稟申ニ  
應シ成規定例アル金穀即チ賞典及ヒ窮民水  
火災救助等ノ類ヲ交付スヘキハ内務卿ノ決  
判ヲ經指令其他總テノ順序ヲ了シ第二類ノ  
達書ハ議案簿冊ヲ添へ本省ニ付シ直チニ之  
ヲ本寮ニ接受ス

第六節

内務省可管ノ經費第二類通知ノ事

同省掌管ノ事務ト多モ臨時金穀ヲ要スルノ  
議案簿冊ハ總テ之ヲ本省ニ合議シ決印ヲ經  
ルノ後納受ニ支障ナキモノハ二類ノ達書ハ  
議案簿冊ヲ添へ送付スル前ニ全シ

第七節

全上貸付金穀通知ノ事

貸付金穀ノ回議簿冊ハ卿決判本省ニ関與スルモノハ本省  
御ノ決判アルノ後二類ノ達書ヲ添へ来ルモ  
拝借金穀ヲ擔理スルノ該課即本省理財課ニテ之ヲ  
受ケ同課ニテ之ヲ精理シ事項ノ臨時ニ涉ル  
モノハ卿之レニ檢印シ成規アルモノハ救助  
類ノ課長ノ檢印ヲ了シテ本寮ニ授受ス

第八節

内務省通知書ヲ以テ傳票ノ順序ヲ  
了スル事

凡ソ内務省ヨリ送達スル處ノ二類ノ達書ハ



金穀受拂ニ付百般支障ナキノ後之ヲ送付ス  
ルモノナレハ本省各主任ニテ要傳票ノ押印  
アルモノト同視シ此達書ヲ添へ來ルハ直チ  
ニ傳票ノ順序ヲナスヲ要ス

但二類ノ達書雛形及ヒ内務省ヨリ本省ニ  
送致スルノ順序ハ第二十五号書冊ニ詳ナリ

第九節

傳票ヲ付スル金穀ノ算數ヲ日計簿ニ登記スル  
傳票ヲ付スルニ方リ帳簿ヲ製シテ金穀ノ該  
負及ヒ出納スヘキ事由顛末ヲ記存ス之ヲ日  
計簿ト云此計簿ハ二冊ニ分ツモノニシテ其

一冊ハ常用出納ノ金穀一冊ハ準備出納ノ金  
穀ヲ登記スヘシ其納拂及ヒ甲乙兩部ヲ區分  
シ顛末ヲ登録スル書式ハ第二十七号雛形ニ  
詳ナリ

第十節

出納ノ金穀ヲ三區ニ分ツ支

出納ノ金穀ヲ分ツテ三區トス其一ハ常用ノ  
甲部即チ其年七月ヨリ翌年六月マテ十二ケ  
月間ニ收出スヘキ金穀ニシテ其二ハ常用ノ  
乙部即チ前年七月ヨリ其年六月マテ十二ケ  
月間ノ金穀ヲ出納スヘキモノナリ其三ハ即

十準備ヨリ収出スルモノニシテ前年六月以  
前ニ関スル出納ノ金穀及造幣鑛山製鉄等ノ  
事業ニ就キ其經費ヲ要スルモノ及ヒ殖益金  
ヲ收取スル等ノ類ハ此準備中ニ於テスヘキ  
モノトス

第十一節 準備金穀収出科目ノ事

準備金穀ヨリ鑛山其他ノ經費及ヒ殖益金ヲ  
收入支弁スルハ毎歲公布アル見込會計表及  
ヒ正院ヨリ本省ニ下達スル内譯簿冊ニ就テ  
詳悉了知ス

第十二節

日計簿ニ甲部乙部準備ノ印ヲ捺シ及ヒ貨  
幣ノ種類ヲ詳記スル事

甲乙兩部ノ金穀及ヒ準備ヨリ出納スル金穀  
ハ回議簿冊若シクハ傳票達書ニ其部分ヲ詳  
明ニ記載アルモノナレハ該簿冊ニ就キ日計  
簿ニモ甲乙及ヒ準備ノ印ヲ捺用シテ以テ之  
ヲ分々若常用ノ收入準備ノ収出ハ貨幣ノ品  
類ヲ區畫シ以テ日計簿ニ詳記ス

但常用支出ノ金穀ハ理財課傳票掛ニ於テ種類ヲ  
分畫シ傳票ヲ付スルモノナレハ每一月傳  
票課ヨリ送致スル簿冊ニ準據シ各種分類

シテ以テ日計簿ニ登録ス

第十三節

準備ノ收入ノ順序及ヒ其種類ヲ区分シテ帳簿ニ記載スルモ

準備ノ金穀ヲ收入スヘキハ主務ノ各廳ヨリ其現金穀ヲ一旦國債寮ニ納入シ國債頭ノ傳票達書ハ御ノ決判アル回議簿冊或ハ仕出書上納達書ヲ添付スヘキ事トス但準備金ハ一類ニ類ノ區別アリテ一類ニ類ノ區分ハ準備金計算并傳票ノ規則ニ詳ナリ其種類ヲ區畫シ及該額ヲ帳簿ニ記載シ勘合ノ印ヲ捺スルヲ以テ國債寮ヲ經ヘキモノトス

第十四節

準備金ヨリ支出スヘキモノハ國債寮ノ帳記等ヨリ本寮ニ付スルモ

準備支出ノ金穀モ其回議簿冊又ハ仕出書ハ主務寮局ヨリ一旦必ス國債寮ニ送致シ一類ニ類ノ押印ト帳記済ノ印ヲ捺用シテ以テ本寮ニ付スヘキモノトス

第十五節

各府縣ノ費用預ケ米金ノ内ヲ以テ文付スル順序ノ定

各府縣費用ノ金穀ヲ預ケ米金ノ内ヨリ交付スヘキハ出納寮ニテ決議簿冊ニ預ケ米金渡印ヲ捺シテ其順序ヲ了シタルヲ證ス若シ順序ノ未タ整ハサルモノアルハ預米金未

大 痛 卷  
済ノ印ヲ捺スルモノナレハ未済ノ押印アル  
ハ主務ノ寮局ニ返付シ其順序ヲ了スルヲ俟  
ツテ再ニ回致セシム

但各府縣ノ内貢納金穀ヲ皆納シ又ハ其他  
ノ事故ニ據リ預米金ヲ為シ難クシテ現金  
交付スルカ如キハ之レヲ臨機ノ處分ニ付  
ス

### 第十六節

傳票ニ付スル金穀ノ負數ヲ日計簿ニ登録  
シテ檢證ノ印ヲ勤合スル度

凡ソ傳票ニ付スルノ金穀ハ其該負顛末ヲ日  
計簿ニ登録シ回議簿冊又ハ仕出書トニ檢證  
ノ印ヲ勤合シシ以テ其差謬ナキヲ保シテ之  
ヲ理財課傳票掛ニ送致ス

### 第十七節

傳票ヲ付スルニ方リ決議簿冊又ハ仕出書  
等ト日計簿トニ番号ヲ付スル度

傳票ヲ付スルニ方リ決議簿冊又ハ仕出書等  
ト日計簿トニ同番号ヲ付シ以テ傳票送致ノ  
順序ニ便ニス但此番号ニ於テハ常用ト準備  
トヲ分テ混同セサルヲ要ス

### 第十八節

租稅寮ニテ擔理收入スル諸稅ハ本寮ノ保證ヲ  
經ス直チニ傳票掛ニ送致スル度

地租其他收入ノ金穀ニシテ租稅寮ノ擔理ス  
ルモノハ本寮ノ保證ヲ經ス租稅寮ヨリ直チ

理財課傳票掛ニ送致スルヲ定規トス

第十九節

傳票ヲ要スル為メ本寮ニ接受スル議冊等總テノ順序ヲ完了シテ傳票掛ニ送致スル期限ノ定

凡ソ出納金穀ノ即時納受ニ支障ナキモノニシテ傳票ヲ要スル為メ本寮ニ接受スルモノハ即日若シクハ三日ヲ出スシテ必其順序ヲ了シ以テ理財課傳票掛ニ送致ス

第十六款

金穀出納ニ関スル議案冊子ヲ成規定格ニ照シ審査勘算スル事

第一節

成規定額アル費用ニ関スル回議ノ当否ヲ審査シ其計數ヲ勘算スル事

凡ソ成規アル金穀ヲ納付支出スヘキモノニシテ本省ニ関スルハ部内ノ寮局内務ニ関スルハ同省部内ノ寮局ニ於テ各廳ヨリノ照管若シクハ稟申ニ對シ指令回答案ヲ作り本寮ニ回付スル片該簿冊ニ對シ成規定格ヲ逐ヒ其当否ヲ審査シ其該頁ヲ勘算シ本省ニ出ス

第二節

立議、趣旨成規ニ違ヒ或ハ計算ヲ誤ルモノ  
アル時、是

金穀ノ算數考案ノ旨趣等成規ニ違ヒ或ハ計  
算ヲ誤ルモノハ其旨趣ヲ付箋ニ摘記シ以テ  
主務ノ寮局ニ返致ス

第三節

成規定額アル費用概目ノ是

成規例格トハ消救賑恤其他凡テ確定ノ規則  
アルモノニシテ此規則タル時々ノ公布等ニ  
ヨリ終變更アルモノナレハ常ニ例規沿革  
規則ノ沿革ヲ逐ニ檢査察ニ照査參看シテ抵  
觸セサルヲ要ス

第四節

成規定額ナキ費用ノ四議ハ御決判前本寮  
ニ回議セサル是

成規定

ル處ノ  
等ヲ調  
得シテ  
モノハ  
ス

第二節

立議ノ趣旨成規ニ違ヒ或ハ計算ヲ誤ルモノ  
アル時ノ支

金穀ノ算數考案ノ旨趣等定規ニ違ヒ或ハ計  
算ヲ誤ルモノハ其旨趣ヲ付箋ニ摘記シ以テ  
主務ノ寮局ニ返致ス

第三節

成規定額アル費用既目ノ支

成規例格トハ消救賑恤其他凡テ確定ノ規則  
アルモノニシテ此規則タル時々ノ公布等ニ  
ヨリ終變更アルモノナレハ常ニ例規沿革  
規則ノ沿革ヲ逐ヒ檢査寮ニ照查參看シテ抵  
觸セサルヲ要ス

第四節

成規定額ナキ費用ノ回議ハ御決判前本寮  
ニ回議セサル支

成規定例ナキモノニシテ前例ヲ逐ヒ収出ス  
ル處ノ金穀ハ主務ノ寮局課ニテ議案指令案  
等ヲ調成シ御ノ決判ヲ乞ヒ都テノ順序ヲ了  
得シテ後本寮ニ達スルモノナレハ定格ナキ  
モノハ御決判ノ前本寮ニ接受セサルモノト  
ス

議、趣旨成規ニ違ヒ或ハ計算ヲ誤ルモノ  
ル時ノ支  
旨趣等定規ニ違ヒ或ハ計  
旨趣ヲ付箋ニ摘記シ以テ  
ス

規定額アル費用既目ノ支

賑恤其他凡テ確定ノ規則  
規則タル時々ノ公布等ニ

ノナレハ常ニ例規沿革  
般百

冊 検査 察ニ照查参看シテ抵

規額ナキ費用ノ回議ハ御決判前本察  
回議セサル支

ニシテ前例ヲ逐ヒ収出ス

ノ察局課ニテ議案指令案

判ヲ乞ヒ都テノ順序ヲ了

連スルモノナレハ定格ナキ

前本察ニ接受セサルモノト

臨時費用ノ支出ヲ要スル件ハ検査察へ候議

ヲ経サルノ順序ニ改定シ本条ノ如ク掲記スルト

虽モ俄其例ニ據ル片ハ慶務上却テ錯綜ヲ来シ不

便宜ナリ故ニ姑ラク従前ノ例ニ因テ之ヲ慶并シ

異日慣練ノ期ヲ待テ釐正セバ大ニ便宜ナルヘシ



第十七款

凡ソ金穀出納ニ關係スルノ事件ヲ本寮ニ下問  
アル時ハ其意見ヲ上答スル事

第一節

正院ノ下問ニ對シ上答議案ヲ作ル事

凡ソ左ニ掲ル條件ノ法案ヲ以テ正院ヨリ本  
省へ下議スルアレハ当寮之ヲ受ケ其当否ヲ  
熟議審按シテ妥当ナルモノハ其旨答議案ヲ  
作り卿ノ決判ヲ請ヒ了テ最前下付ノ法案ト  
共ニ本省文書課往復掛リニ付シ答議ヲ淨書  
シテ正院へ返呈セシム而シテ答議案ハ同掛リ

ヨリ直々ニ記録寮ニ回送シ其副本ヲ同寮ヨ  
リ受領ス

一定額アル金穀及ヒ其規則ニ関係ノ件

一金穀出納計算ニ関係ノ件

一勘定仕上ニ関係ノ件

### 第二節

正院ヨリ下議スル法案中妥当ナラサル條件  
アルハノ事

正院下議ノ法案中若シ妥当ナラサルカ實際  
ニ於テ夫吾スル等ノ件アレハ其意見ヲ答議  
シ或ハ其事由ニ因リ卿ノ旨ヲ兼ケ更ニ法案  
ヲ整理シテ上呈スル事アルヘシ

### 第三節

本省ヨリノ下問ニ答議スル事

第一節ニ掲ル條件ヲ卿ヨリ下議スルコトアレ

ハ其当否ヲ審案シ答議ヲ作テ呈ス

但時宜ニ因リ卿ノ命ヲ奉シ新タニ法案ヲ

調整シテ上呈スル事アルヘシ

第十八款

凡ソ定額金穀及ヒ勘定仕上其他計算上ニ関ス  
ル規則ノ曉解シカタキ條アリテ諮問照會ヲ受  
ル時ハ之レカ回答若シクハ指令等便宜ノ考案  
ヲ作り或ハ實際ノ施為ニヨリテ其規則ヲ設立  
シ又ハ改正ヲ要スルヲアレハ其法案ヲ作ル事

第一節

疑問ニ回答ヲ作ス

定額金穀及ヒ勘定仕上其他計算上ニ関スル  
規則中若シ曉解シ難キノ條或ハ一事兩歧ニ  
涉リテ決シ難キノ件アル時諮問照會ヲ受ル

アレハ其事端ヲ詳悉シ先規例格ニ照シテ回  
答書若シクハ指令案ヲ作り寮頭之ヲ決判シ  
卿ノ名ヲ以テ付達シ其本寮へ諮問スルモノ、  
如キハ寮頭ノ名ヲ以テ之レニ回答ス

第二節 答議ヲ草スルニ引證ヲ付スルモ

疑問ヲ受ケテ答議ヲ草スル必ス引證ヲ付ス  
ハシ引用ノ證ニ項ニ分テ一ハ規則一ハ補  
則トス

其一 規則ニ照シテ毫モ疑ヲ容レサルモ

ノハ指令或ハ回答中某規則第幾條

ニ照準スヘキ旨ヲ掲載ス

其二 規則ニ照シ少シク疑ヲ抱クモノ或

ハ規則ニ明文ナキモノハ正院稟彦

又ハ本省稟議ヲ草シ裁可ヲ経テ之

ヲ處分シ名ケテ補則トシ将来之ヲ

憑據トシテ指令又ハ回答ヲ草ス此

ノ如キハ某ノ規則第幾條ノ補則ニ

準據シタルトテ前議ニ掲載ス

第三節 補則整成ノ時々各廳へ回達スルモ

前節ニ掲ル補則整成ノ時々大蔵卿ノ名ヲ以

テ之ヲ各廳へ回達シテ規則誤認ノ患ナカラシム

第四節 補則ハ規則ノ趣旨ヲ解明スルニ止ルモ

補則ハ童規則ノ趣旨ヲ解明スルニ止ル故ニ

正院或ハ本省等ヨリ一般へ公布スルモノハ

前節ノ例ニアラス

第五節 疑問ヲ受クルノ際先規ノ據ルヘキナクシテ更ニ便宜ノ方法ヲ設立スル等ノ更

第一節ニ掲ル如ク諮問照會スルノ際先規例

格ノ據ルヘキナクシテ更ニ便宜ノ方法ヲ設

立シ或ハ之ヲ折衷シテ一ノ法則ヲ創定セシ

ト欲スルモノハ其事理ヲ審按シ正院へ稟議

及ヒ布達案等ヲ具シ關係ノ寮局卿ノ決判ヲ

經テ其議冊ヲ本省文書課往復掛リニ付シ淨

書シテ正院へ進達セシメ指揮ヲ待テ第一節

ノ順序ニ據リ處分ス

第六節 従前一定ノ成規ナキモノ實際ノ施為ニ因リ新ニ方法ヲ設ルモ

第一節ニ掲ル條件中従前一定ノ成規ナキモ

ノ等實際ノ施為ニ因リ新ニ便宜ノ方法ヲ設

立セント欲スレハ其法按ヲ作り卿ノ決判ヲ

經テ正院へ進達スルニアルヘシ

第十九款

金穀出納上規程トナルヘキ條件達書届書ノ類  
ヲ受領スル事

第一節

金穀出納上ニ於テ将来規格トナルヘキ條件ヲ  
正院於テ許可セシキ本省へ達ノ事

凡ソ金穀出納上ニ於テ将来規格トナルヘキ  
條件特ニ正院ノ許可ノミニシテ其旨一般へ  
公布セサルモノハ其許可ノ旨趣ヲ必ス本省  
ニ令達シ本省之ヲ当寮ニ達スルヲ例トス

第二節

全上本省於テ許可セシキ本省へ達ノ事

前節ニ掲ル條件ヲ本省於テ許可シ其旨一般

大蔵省

ハ布達セサルモノハ其許可ノ旨趣ヲ当察ニ  
達スルヲ例トス

### 第三節

正院或ハ本省ノ達書ニ據テ其費用ノ計簿ヲ調  
査スルモ

第一節第二節ニ掲ル如ク達書ヲ受領セシ上  
ハ他日其費用ノ計簿ヲ調査スルノ際必ス此  
達書ヲ以テ準據トス

### 第四節

正院或ハ本省ヨリ達書中一般ノ例規トナル  
ハキモノアレハ一般ノ公布ヲ要スルモ

第一節第二節ニ掲ル達書中若シ其事款各廳  
一般ノ例規トナルハキモノニシテ之ヲ公布  
セサレハ出納検査上ニ於テ支障アルト思慮

セシ片ハ其由ヲ具陳シ一般ノ公布ヲ要スル  
トアルヘシ

### 第五節

各廳ニ於テ旅費等ノ適宜方法ヲ設立セシキ  
ノ届書ヲ審査スルモ

各廳ニ於テ旅費其他午当金等ノ適宜方法ヲ  
設立シタル旨ヲ届出ルアレハ先ツ成規定例  
ニ據テ其当否ヲ審案シ可ナルモノハ卿ノ一  
閱ニ供シ了テ之ヲ本寮ニ止メ他日其經費ノ  
勘定帳簿ヲ調査スルノ準據トス

### 第六節

適宜方法届書中妥當ヲ得サル條アル片ハ  
其旨ヲ達スルモ

前節ニ掲ル所ノ届書中若シ妥當ヲ得サルノ

大藏省

條アルカ又ハ例規ニ抵触スルノ件アレハ其  
旨趣回答書或ハ指令按ヲ作リ御ノ決判ヲ請  
ヒ以テ該廳へ令達ス

但具事款若シ該廳長官ノ權限外ニアリテ  
カラ正院ノ允許ヲ不經シテ全ク專決ニ出  
ルモノト思量セシハ第五款第十四節但  
書ニ掲ル例ニ準據シテ其届書ヲ返還ス

### 第二十款

金穀出納ニ関スル事務ハ其實際ヲ詳悉スルタ  
メ臨時各廳ニ抵リ其簿冊等ヲ検査スル事

#### 第一節

臨時各廳ニ抵リ計簿ヲ點檢スル事

金穀出納ニ関スル事務ハ其實際ヲ詳悉スル  
為メ寮頭ハ臨時各廳ニ抵リ其簿冊ヲ點檢シ  
其處務ヲ監視スルヲ得ヘシ

但時宜ニ因リ寮中ノ官算ヲシテ時々検査  
セシム

#### 第二節

倉庫ノ鍵鑰ハ一ヲ分ツテ寮頭之ヲ管守  
スル事



倉庫ノ鎖鑰及ヒ其開閉ハ出納頭ノ所管カリ  
ト雖モ寮頭ハ時々出納頭ト共ニ倉庫中ニ抵  
リ其実況ヲ檢視ス故ニ倉庫ノ鍵鑰ハ其一ヲ  
分ツテ寮頭之ヲ管守ス

第三節

庫中現金ノ出入ヲ檢視スル事

庫中收藏スル所ノ現金ヲ出入スルニ方テハ  
寮頭或ハ寮中ノ官負代理トシテ倉庫ニ抵リ  
其出入ヲ檢視シ而シテ有高帳ニ就テ其出入  
ノ額ヲ簿記シ寮頭之ニ捺印ス

但寮中ノ官負ヲシテ代理セシムルハ其

代理ノ官負本文有高帳出入ノ額ニ捺印シ  
而シテ後寮頭之レニ捺印ス

第四節

紙幣及ヒ公債證書等製造ノ事務ヲ  
捺視スル事

紙幣及ヒ公債證書又ハ諸印紙類ノ製造其他  
金穀ニ関スル緊要ノ事務ハ寮頭实地ニ臨ミ  
之ヲ捺視ス

但時宜ニ因リ寮頭ノ指揮ヲ以テ寮中ノ官  
負ヲシテ捺視セシムル事アルヘシ

第五節

銀行ハ預ケ金有高取調ノ節立會  
ノ事

銀行ハ預ケ金有高取調ノ為メ主任ノ寮官出

張スルハ本寮ニ於テモ之レカ立會トシテ  
共ニ出張検査スルヲ例トス其立會トシテ出  
張スルノ前出納頭ヨリ本日銀行ニ預クル所  
ノ金額ヲ報知ス之ヲ以テ現有高ヲ檢視シ差  
異ナケレハ其報知書ノ金額ニ立會ノ検査官  
負捺印シ而シテ寮頭之レニ捺印ヲ捺ス

第二十一款

凡ソ布告達書ノ類其他寮中一切ノ文書帳簿ヲ  
編纂管理シ及ヒ本寮業務ノ考課帖ヲ作ル事

第一節

簿書ヲ編纂シテ検査ノ要ニ供スル事

凡ソ本寮ノ事務ニ處スル必ス定規例格ヲ明  
カニセサルヘカラス故ニ諸布告布達ヲ始メ  
一般出納事務ニ関スル定規成例ハ各部門ヲ  
分ツテ悉ク之ヲ編纂シ以テ検査ノ要ニ供ス

第二節

太政官布告達書及ヒ本省布達等ヲ編纂スル事

太政官布告達書日誌及ヒ本省布達ノ類ヲ寮

ハ送致スル者ハ順次番号ヲ添サス各其簿冊ニ編入ス

第三節

布告布達ノ類ヲ各課ニ分配スル也

布告布達ノ類ハ寮中各分課ノ掄照ニ便ナラシマル為メ毎課ニ一部ヲ分配シ前節ノ例ニ據テ編入ス

第四節

各省使ノ布達類ヲ編纂スル也

各省使ノ布達類本省ヨリ回送スルモノハ隨時一通ヲ謄寫シ速ニ頭及ヒ各分課ニ傳致ス各課巡閱シ了レハ及キ之ヲ各部ニ編入ス

第五節

正院ノ命令書及ヒ各廳ノ達書等ヲ編纂スル事

金穀出納ニ関スル事款ニ付正院ノ命令書其他各廳ノ達書等記録寮ノ副本ヲ以テ本省ヨリ回達スルアレハ隨時一通ヲ謄寫シ速ニ頭及ヒ各分課ニ傳致ス各課巡閱シ了レハ及キ其類ヲ分ツテ各部ニ編入ス

第六節

本寮起案ノ回議冊ヲ編纂スル也

本寮起案ノ回議其議既ニ決スル者本省文書課受付往復ノ兩掛リニ於テ其處分ヲ完了スレハ直キニ之ヲ記録寮ニ送致シ原書ハ同寮

ニ収メ寫ハ本寮ニ還付ス主任之ヲ受ケ盡テ  
ニ編輯主務ノ負ニ回付スレハ其類ヲ分ツテ  
各部ニ編入ス

但每部分門スト虽モ其冊數ノ多少ニ隨ヒ  
或ハ之ヲ各冊ニ分ケ或ハ每部合併スル等  
ハ妨ケナシ

第七節

本寮起案ノ回議中現ニ金穀ヲ出納スルノ儀ニ係ル  
モノハ之ヲ騰寫シテ分類編纂スル也

本寮起案ノ回議中現ニ金穀ヲ出納スルノ儀  
ニ係ルモノ其議既ニ決シ前節ニ掲ル順序ヲ  
經テ記録寮ヨリ副本ヲ還付スレハ編輯主務

ノ負之ヲ受ケ騰寫鈔録シテ以テ分類編纂ス  
但記録寮ノ副本ハ傳票ノ要ニ供スル為ノ  
主任ニ交付ス

第八節

各寮局起案ノ回議冊ニ(要再回)ノ印ヲ捺スル  
事

各寮局起案ノ回議巡覽ノ帖冊諸院省へ往復  
文書等ノ類本寮處務ニ要用ナリトスルモノ  
ハ御決裁ノ上再ヒ本寮ニ回致セシムル為メ  
其回議冊ニ(要再回)ノ印ヲ捺スルヲ例トス

第九節

(要再回)ノ印ヲ捺シタル回議ヲ騰寫編纂  
スル也

(要再回)ノ印ヲ押シタル回議等決裁ノ後再ヒ

各寮局ヨリ回致スレハ乃チ謄寫鈔録シテ以テ之ヲ分類編纂ス

第十節 (要再四ノ印ハ各分課ノ内ニテ之ヲ捺スル)

要再四ノ押印ハ其事款ニ專ラ關係アル分課ニ於テナスヘシ故ニ各分課ニ便宜一冊子ヲ備置キ其再四ヲ要スル回議ノ件銘及ヒ番号月日等ヲ鈔録シ若シ再四遲延スルアレハ之ヲ主務ノ寮局ヘ督促シ速ニ回致セシム

第十一節 簿冊ノ部類ヲ分テ或ハ之ヲ合冊ニスル等ノ事

凡ソ簿冊ノ部類ハ其類似スル者ヲ併セテ合冊トナシ專ラ繕閣ニ便ニスト魚モ大抵一串連絡シテ他日ノ照會ニ用アルモノ、如キハ別ニ書目ヲ設ケテ之ヲ一冊ニ収聚シ各部ニ散在セシム可ラス

第十二節 凡ソ公文書類ハ先ツ部類ヲ分ツテ仮ニ之ヲ編輯シ一冊子ヲ作セハ更ニ綴綴スル事

凡ソ布告布達ノ類其他本寮及ヒ各寮局ニ起ル回議ノ寫本ハ先ツ部類ヲ分ツテ仮ニ之ヲ編輯シ一冊子ヲ為セハ更ニ綴綴シ而シテ之ヲ書目ニ記載シ書箱ニ収メテ之ヲ管守ス

第十三節 回議副本ハ本寮起業他寮起業ト別冊ニ編輯スル事

九ノ四議冊副本ハ本寮起按ノモノト他寮局  
起案ノモノトヲ別冊ニシ以テ之ヲ編輯ス

第十四節 蔵書目録ノ支

寮中收藏スル處ノ一切ノ書籍ハ蔵書目録ヲ  
編製シ悉ク其書籍ノ名号ヲ登記ス

第十五節 書籍件名簿ノ支

寮中收藏スル處ノ書籍各簿冊ニ分類編入セ  
シ議冊等ノ件銘ヲ登記スル為メ書籍件銘簿  
ヲ編製シテ搜索ニ便ナラシム

第十六節 書籍出入帳ヲ製シ其出入ヲ詳記スル支

寮中收藏スル處ノ書籍散逸ノ患ナカラシメ  
ンカ為メ書籍出入帳ヲ製シ各課ニ貸與スル  
ノ際其請求スル處ノ書名月日及ヒ姓名ヲ認  
メ小印ヲ押サシメテ後々之ヲ付與シ其返還  
スルニ及ンテハ某日返還ノ旨ヲ記入ス

第十七節 圖書ヲ保存スル支

圖書ヲ保存シテ毀傷黧汚ナカラシムル為メ  
時々庫内ヲ點檢シ掃除ヲ嚴ニシ勉メテ書棚  
ヲ清潔ニシ夏日ハ之ヲ涼所ニ移置シテ蠹蝕  
ノ患ナカラシム

第十八節

出納事務ニ関スル成規例格ヲ分類編纂シ其沿革ト現今施行スルモノトヲ明瞭ニスル也

出納事務ニ関スル成規例格ハ諸布告令達正院稟議等ノ各簿冊中ヨリ悉ク之ヲ分類摘録シテ漸次之ヲ編纂シ其沿革ト現今施行スルモノトヲ明瞭ニシ検査ノ際照監ニ便ナラシム

第十九節

考課帖ヲ作ル也

本寮ノ處務毎件議冊ニ據テ其類ヲ分々年月ヲ叙次シ詳明ナル考課帖ヲ作テ之ヲ記祿寮編纂課ニ送り其校訂了ルヲ俟ツテ更ニ浄書シテ

同課ニ送致ス

大藏省

第二十二款

本寮必需ノ諸物品ヲ收取管理シ及ヒ修補營繕ノ事務ヲ辨理措置スル事

第一節

本寮所用諸物品ヲ本省用度課ヨリ收受スル等ノ度

本寮ニテ通常所用ノ紙筆墨朱等一切ノ諸物品ハ豫メ受取牒ヲ製シ其受取ヘキ品類ヲ記載シ管主ノモノ押印ノ上本省用度課ニ付シテ收受ス尤連月十ノ日ニ現品ノ多寡ヲ計リ受取置ヲ例トス每一月物品受拂帳ヲ作り前ニ受取ト一口ノ品物ノ過不足ヲ算計シ拂高

大藏省



ト残品等ノ部分ヲ詳細ニ記シ管主ノ者捺印  
ノ上寮頭ノ奥書調印ヲ請ケ而シテ御ニ上ス

### 第二節

諸物品ヲ寮中諸員ニ供給スル等ノ吏

前節收受スルトコロノ物品ハ管主ノ者之ヲ  
儲蓄管理シ寮中諸員ノ需要ヲ待テ供給ス通  
常意ヲ注シテ點檢整置シ散失ナカラシムル  
ヲ要ス

### 第三節

本寮内外ノ管絛及ヒ机案椅子等ノ修補  
ハ用度課ニテ并理セシムル也

本寮内外ノ修補管絛及ヒ器物ノ類ヲ製調ス  
ルキハ其趣旨ヲ具状セル回議ヲ作り御ノ許

可ヲ經テ本省用度課ニ達シテ所置セシム且

寮中常用ノ物品机案椅子書簾文筆等ノ修補

ニ至テモ同様用度課ニ報シテ辨理セシム

### 第四節

新任ノ人アル時筆硯墨朱其他ノ物品ヲ供給  
スル也

本寮へ新任ノ人アル片ハ筆硯墨朱筆小刀ノ  
類ヨリ算盤椅子等マテ欵遺ナク用度課ヨリ  
受取之ヲ其人ニ給與シ奉務ノ障碍ナカラシ  
ム

第二十三款

寮中諸官負ノ月給旅費其他一切ノ諸雜給ヲ文  
付供給スル事

第一節

寮中官負ノ月俸ヲ收受シ之ヲ各負ニ交付  
スル等ノ度

寮中官負月給ハ毎月十七日ニ給與スルヲ例  
トス故ニ其期前ニ新任轉免或ハ帰省病告等  
ヲ詳悉取調精密ナル月給仕出書ヲ作り金負  
ヲ計算シ了テ寮頭ノ檢印ヲ請ヒ本省用度課  
ハ送致シ而シテ甲乙月給受取帳ハ総計金負  
ヲ録シ頭ノ調印及ヒ本寮ノ印章ヲ捺シ同課

大藏省

ニ送り證券ヲ受領シ之ヲ銀行ニ付シ現金ヲ  
收取シ各員ヘ分賦シ了テ月給檢證録寮中官  
員ノ姓  
名ヲ記シ月給渡濟ノ  
證ヲ徴スルモノトシハ押印ヲ為サシム

但養任以上月給税ハ本人ヘ供給スル月俸  
ノ内ヨリ其税額ヲ減削シ之ヲ銀行ヘ送回  
シ證券ヲ製セシメテ用度課ヘ納付シ而シ  
テ同課ノ請取書ヲ各員ヘ交付ス

### 第二節

寮中官員ノ旅費ヲ收受シ之ヲ本人ヘ交  
付スル等ノ莫

官員旅費支給ハ先ツ本人ヨリ見込書ヲ主任  
ニ出サシメ並旅行巡回滞留等ノ日數及ヒ海

陸里程ヲ測算シ定規ニ照查シテ精密ナル仕  
出書ヲ作り金貨ヲ計算シ了テ寮頭ノ檢印ヲ  
受ケ本省用度課ニ送致シ而シテ收受ノ順序  
前節ノ如シ尤帰京ノ上精算仕上ケテ調製シ  
過不足受納ノ手續ヲ為サシム

### 第三節

寮中官員解免等ノ節満年賜金ヲ收受  
シ之ヲ交付スル莫

官員解免及ヒ病死ノ節満年賜金支給ハ履歴  
短冊ニ依テ奉職年月ヲ計算シ周年以上ナレ  
ハ履歴ヲ記載シタル仕出書ヲ作り頭ノ檢印  
ヲ受ケ之ヲ用度課ニ付ス而シテ收受ノ順序

ハ第一節ニ掲ル如シ

第四節

全上帰國ノ旅費ヲ收受シ之ヲ交付スルモ

全上帰國旅費支給ハ本貫ノ府縣出張所詰官  
員ヨリ本人願書ハ添書ヲ以テ申請スルヲ例  
トス然ル後里程日数ヲ調査シ規格ニ照シテ  
仕出書ヲ調シ頭ノ捺印ヲ請ケ之ヲ本省用度  
課ニ付ス收受ノ順序ハ第一節ニ掲ル如シ

第二十四款

寮中各員ノ身上ニ係ル一切ノ願請申報ノ類ヲ  
稟啓傳達スル事

第一節

寮中官員辭職帰省忌服轉居等ノ申報  
ヲ傳達スルモ

官員辭職帰省忌服轉居其他一切ノ身上ニ関  
スル稟請申報ノ類ハ其旨趣ヲ日記ニ録シ了  
テ直ニ寮頭へ出ス而シテ御ノ許可ヲ仰クヘキモ  
ノハ寮頭ノ申請ヲ添テ本省職務課ニ送致ス  
御決裁済ノ傳達アレハ又寮頭ノ命ヲ請テ其  
旨ヲ本人へ傳達ス

大藏省

第二節

官負所勞引籠等ノ届書ヲ傳達スル事

官負所勞引籠等ノ届書ハ主任之ヲ請ケ直ニ  
寮頭へ上ス尤十五日ヲ経テ出勤セサルモノ  
ハ頭ノ副書ヲ添テ本省職務課ヨリ卿へ届出  
ス其荏苒時日ヲ経ルモノハ例規ニ據リテ其  
趣ヲ寮頭へ申告シ頭ノ指揮ヲ請テ處分ス

第三節

寮中官負ノ印鑑ヲ徵スル事

新ニ本寮へ拜命スルモノハ実印小印共印鑑  
ヲ徵スヘシ遺失又ハ磨滅等ニテ改造スル  
ハ更ニ其旨ヲ申明セシム

第四節

新ニ拜命ノモノハ本省ノ印鑑ヲ付與スル事

本省ノ印鑑ハ新ニ拜命スル者ニ一枚ヲ付シ  
其番号及ヒ月日ヲ簿記シテ調印セシメ轉任  
免職等ハ還納ノ後ニ至テ消却ス

職省

第二十五款

寮中官負ノ勤休表ヲ製シ宿直表ヲ定ムル等其  
他寮中一切ノ雜務ヲ調理スル也

第一節

在寮ノ官負勤休表ヲ製スル也

在寮ノ官負日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ毎日之  
ニ押印セシメ一ケ年兩回六月  
十二月勤休ノ日數ヲ

總計シテ表ヲ製シ御ニ呈ス

第二節

寮中宿直ノ順序ヲ定ムル等ノ也

寮中宿直ノ順序ヲ定メ簿冊ヲ作リテ之ヲ記  
載シ又總負ノ姓名ヲ記セル小牌ヲ本寮へ掲

ケ置キ其期日ヲ一觀セシムヘシ若シ新任轉  
免等アリテ順次變換スレハ直々ニ改置シ其  
旨ヲ本人ニ報知ス

### 第三節

本寮ノ印章ヲ管守スルモ

本寮ノ印章ハ管主ノ者毎日寮頭ノ席ニ出シ  
其押用ニ供シ了テ還付スレハ又管主ノ者之  
ヲ領置シ還寮ノ時ニ至レハ宿直ノモノニ批  
シテ保監セシム

### 第四節

本寮ニ備具スル印門鑑札本省印鑑諸鍵鑰  
ノ類ヲ管守スルモ

本寮ニ備具スル御門鑑札本省印鑑并諸鍵鑰  
ノ類ハ主任之ヲ掌管シ鑑札ハ其所用アルニ  
當テ番數月日ヲ記シテ押印セシム之ヲ付與  
シ事了テ還納セシム且前頭諸品ハ主任退散  
ノ時ハ本寮宿直ノモノニ付屬シ夜中臨時ノ  
使用ヲ為サシム

### 第五節

各所ニ往復ノ書信ヲ送達シ此費用ヲ受取  
スルモ

各所ニ往復ノ書信ハ事ノ緩急細大ニヨリ郵  
便又ハ電信ヲ以テ通達シ而シテ此費用ハ仕  
譯書ヲ以テ本省用度課ニ付シ辨償セシム

### 第六節

本中官復ノ履歷短冊ヲ徵取スルモ

機省

寮中官負ノ履歴注冊ヲ徵取シ本寮職負録ニ  
挿入シ新任轉免等ノ節出入増損シテ常ニ異  
謬ナカラシム

第七節

寮中官負ノ姓名ヲ記著シ其分課ヲ區別シテ寮頭ノ席間ニ掲列スル也

寮中惣負ノ姓名ヲ添札ニ記著シ其分課ヲ區  
分類別シ寮頭ノ席間ニ掲列シテ某ハ何課誰  
ハ何掛タルヲ一目瞭知セシム其昇降出張分  
課替等ハ時々之ヲ交換改正シテ差謬ナカラ  
シム

第八節

各廳長官ノ印影ヲ徵取スル也

諸官省各府縣長官ノ印頭ヲ徵取シ印鈔帳ヲ  
作テ挿入編纂シ各課照查ノ用ニ供ス

第九節

寮中ノ雜務ヲ辦理スル事

本寮内外及ヒ宿直所ニ至ルマテ時々小使等  
ヲ指令督促シテ洒灑掃除セシメ勉メテ乾潔  
清淨ナルヲ要ス又常ニ給仕小使等ノ勤惰ヲ  
監視督責シ其他時辰機ヲ測正シ簿書ノ乱推  
筐簾ノ位置等ヲモ時々點檢整頓セシメ本寮  
ノ體裁ヲ修正スルヲ要ス

第十節

布告其他至要ノ文書ヲ便宜蒐輯スル  
等ノ事

儀  
書



平素寮頭ノ命ニ依テ各廳往復其他ノ文案ヲ  
具シ書記ノ事ヲ處弁シ及ヒ公布其他至要ノ  
文書ヲ存録シ以テ緡閱ノ便ニ備フ

第二十六款

各方ヨリ送致スル諸公文ヲ受テ送達スル事

第一節

院省使寮局ヨリ送致スル公文ヲ受付スル度

院省使寮局ヨリ送致スル所ノ諸公文類都テ  
本省ヨリ送付スルモノハ其趣旨ノ概畧及ヒ  
月日等ヲ受付件銘簿へ登記シ而シテ頭ノ指  
揮ヲ請テ以テ專掌ノ課へ送達ス

第二節

本寮起案ノ回議冊ヲ本省或ハ各寮局へ  
回致スル度

專掌ノ課ニ於テ管主ノ者稟議ニ由テ上申或  
ハ回答等ノ議按ニ作り原書ヲ添へ所関ノ各

機省

謀へ回議シ頭ノ捺印ヲ請ケ了テ之ヲ受付專務ノモノニ付ス此ニ於テ其議冊ニ(検査)ノ印ヲ押シ番号ヲ記シ又受付件銘簿へ其月日ト管主ノ姓名トヲ劄記シ回覽協議ヲ要スルノ察局アルモノハ之ニ送付シナキモノハ直ニ本省ヨリ出シテ卿ノ決ヲ乞フ

### 第三節

決判済ノ回議ヲ受付スルモ

卿決判済又本察へ送致スレハ其議冊ノ押印ヲ點檢シ其異議ナキモノハ察頭ノ一閱ヲ了シ直ニ之ヲ管主ニ付與ス管主本書ヲ添テ

再ニ回付スレハ之ヲ本省文書課往復掛へ送付ス同掛達済ノ上其回議冊ノ記録察へ送致シ同察於テ全議ノ副本ヲ製シ之ヲ本察ニ回送スレハ直ニ受付件銘簿へ達済ヲ記シテ管主者へ還了ス都テ出入送達スルノ時々件銘簿冊ニ必ス受領者ノ小印ヲ請ケ遺脱錯綜ナカシヤ要ス

但本察宛ノ諸公文等察頭ノ名ヲ以テ回答スルモノハ本省ヲ經ス直ニ之ヲ該廳へ達ス

第四節

各府縣ヨリ申牒スル諸願同届等ヲ受付スルモ

各府縣ヨリ申牒スル諸願同届等本省又書課  
受付掛ヨリ送致シ来レハ受付件銘簿ニ登記  
ス其他ノ順序ハ第一節ヨリ第三節マテニ準  
據スヘシ尤回議了レハ本書ヲ付シ本省文書  
課受付掛ニ出シ傳達ヲ為サシム

但今上

第五節

院省使寮局ヨリ送致スル勘定帳ヲ受付スルモ

院省使寮局ヨリ送致スル勘定帳ヲ本省文書  
課往復掛ヨリ送付スレハ其件銘ヲ勘定帳受

付件銘簿ニ登記シ專掌ノ課ニ送付ス專掌ノ  
課於テ別ニ帳簿ヲ製シ其件銘冊数及ヒ月日  
ト管理スルモノ、姓名トヲ記載シ而シテ之  
ヲ調査ス若シ調査上推問改算ヲ要スルカ為  
メ管理者ヨリ直ニ其院省等ニ往復スルヲ  
リテ回答ヲ付シ来レハ受付專務ノモノ之ヲ  
受ケ往復簿ニ記載シテ管理ノ者ニ送付ス

第六節

各府縣ヨリ送致スル勘定帳ヲ受付スル事

各府縣ヨリ送致スル勘定帳ヲ本省文書課受  
付掛ヨリ送致スレハ其件銘ヲ勘定帳受付件

銘簿ニ登記シ專掌ノ課ニ送達スルノ前節ニ  
全シ

第七節 各寮局起業ノ回議冊ヲ受付スル事

各寮局課ニ於テ建議立按スルトコロノ回議  
冊檢閲ノ為ノ本寮へ回達シ来ルモノハ回議  
件銘簿ニ受付月日及ヒ擔当者ノ姓名等ヲ詳  
記シ回議冊寮名ノ肩ニ受付ノ月日ヲ記シ而  
シテ寮中関涉ノ各分課ニ回致スル為ノ其課  
号ノ小印ヲ捺シテ之ヲ送付ハ各課及ヒ頭巡  
閱檢印了テ而シテ返還ス尤返還ノ時日或ハ

他へ送付スル時ハ其由ヲ回議件銘簿ニ記シ  
其受領者ノ證印ヲ徴ス

但各寮へ合議スルノ回冊ハ各寮檢印済ノ  
上本寮ニ送付スルヲ則トス因テ他寮局未  
タ檢印ナキハ其旨ヲ付箋シ一旦之ヲ還付  
ス

第八節 回議中至急時日ヲ期スルモノアルノ度

本寮起按ノ回議至急時日ヲ期スルノ件アリ  
テ尋常受付ノ順序ヲ經ルニ違アラサルニノ  
ハ專掌ノ課ニ於テ頭ノ決判ヲ乞ヒ直ニ他へ

田達スルモノアリ如此ハ擔当者ヨリノ通知  
ニ因テ其件銘等ヲ回議發遣簿ニ記載シ付日  
ノ考證ニ備フ

但前ノ如キ至急ノ件ニテ各寮局ノモノ自  
ラ持来リテ檢印ヲ要スルモノハ受付件銘  
簿ニ関涉スルナシ

### 第九節

大藏内務ノ兩省合評スル回議冊ヲ受付スル  
事

本省ヨリ内務省へ合議スルモノ或ハ同省ヨ  
リ本省へ合評スル議冊而省卿ノ名ヲ署スル  
モハ甲省卿調印ノ上乙省ニ回致ス或ハ甲

省卿ノ名ヲ署スト虽モ乙省ハ唯寮局名ノミ  
ノ分ハ其寮局ノミ調印ノ上主任ニ還送ス若  
シ其回議兩省中數寮局ニ関スルモノハ当省  
諸寮局調印ノ後本寮ニ付スルヲ則トスレハ  
未タ調印ナキ寮局アルトキハ其旨ヲ付箋シ  
テ該寮局へ回送ス

### 第十節

傳票ヲ要スル諸回冊ヲ受付スル事

諸回冊中傳票ヲ要スルモノ(要傳票)ノ印ヲ押  
テ之ヲ送致スレハ傳票件銘簿へ件銘並ニ出  
納金數ノ負數ヲ詳記シテ專掌ノ課ニ送付ス

但内務省ヨリ指令セシ傳票ヲ要スルハ  
同省達書ニ前議ヲ添付シ本省文書課復  
掛ヲ經テ當寮ニ傳致ス

第十一節

準備金収出ノ傳票ヲ要スル諸回母ヲ  
受付スル支

準備金穀ノ傳票達書ハ國債寮ニ於テ帳記濟  
勘合リ印ヲ捺スルヲ例トス故ニ内務省ヨリ  
回致スル分ハ本省文書課往復掛ニテ之ヲ受  
ケ本寮ニ回致スレハ前節ノ順序ニ倣ヒ件銘  
金負ヲ簿記シテ專掌ノ課ニ送致シ準備ノ収  
出、一旦國債寮ニ回付シ同寮帳記濟勘合ノ

印ヲ了シ再々本寮ニ付スルヲ俟テ專掌ノ課  
ニ送付ス

第十二節

内務省第一類通知書ヲ受付スル  
事

内務省於テ定規アル者ヲ指令セシ第一類ノ  
通知書ヲ本省文書課往復掛ヨリ送致スレハ之  
ヲ受付件銘簿ニ記シ直ニ專掌ノ課ニ送付ス

第十三節

諸布告布達ノ類ヲ受付スル支

凡ソ諸布告布達ノ類ヲ回達送致シ来ルアレ  
ハ受付件銘簿ニ件銘番号ヲ記載シテ速ニ專  
掌ノ課ニ送付ス專掌ノ課寫濟小印ヲ押シ之

ヲ返付スレハ其宛所ニ由リテ送達ス其刊行ニ係ル布告布達日誌等ノ類ハ專掌ノ課ニ於テ便宜編輯セシム

第十四節

受付件銘簿ヲ編製スル事

凡ソ各方ヨリ送致傳達スルトコロノ百般ノ簿言冊子ノ來往ヲ明瞭ニシテ淡滞埋没ナカラシムル為メ受付件銘簿ヲ製シテ詳細ニ銘記シ又時々之ヲ翻閱シテ目存心記スルヲ要ス

第十五節

各分課擔當ノ書類既済未済ヲ詳ニシテ簡明表ヲ製スル事

各分課擔當ノ書類每一ヶ月出入明細ヲ記載シタル處務日報ヲ月末ニ至リ受付專掌ノモノニ送致ス專掌ノモノ之ヲ受付件銘簿ハ照合シ達済納置返戻等ノ印ヲ捺シ以テ既済未済ノ別ヲ詳ニシ簡明表第二十八号ヲ製シテ寮頭ノ檢照ニ供ス

但處務日報ハ照合済速ニ各分課ニ還付スルヲ要ス

第十六節

各廉官員ヲ出頭セシムル呼出状ヲ送達スル事

事務管至ノモノ諮詢推究ノ為メ各廉ノ官員

ヲ直ニ本寮へ出頭セシムルコトアルトキハ別  
テ呼出状ヲ作り其廳名ヲ志冊子ニ記シ而シ  
テ之レニ捺印シ呼出状ハ受付專掌ノモノニ  
由テ各廳へ送達セシム各廳ノ官算出頭スレ  
ハ受付專掌ノモノ其主務ノ課ヲ指示ス

第二十七款

寮中一切ノ事務各課分掌シテ之ヲ處辨スル也

第一節

事務掌管ノ部門ヲ設ル也

本寮掌管ノ事務ヲ分テ八課トシ課中部門ヲ  
設テ以テ寮中一切ノ庶務ヲ調理シ八課相並  
テ以テ現務ヲ提掌ス

但当今出納順序及ヒ検査法改正ノ際タル  
ヲ以テ本文八課ノ外改正掛ヲ置キ其改正  
ニ関スル事務ヲ擔理セシム

第二節

每課々長ヲ置ク事



每一課ニ長一員ヲ置キ分課ノ事務ヲ統理掌  
管セシム此長ハ助以下委任官ノ職任トス然  
レトモ欠員アルカ或ハ事務ノ繁閑ニヨリ一  
人兩三課ヲ兼ヌルヲ得又ハ課長心得ノ名又  
以テ正權大属ヨリ補撰セシムルヲアルヘシ

第三節 課長責任ノ事

課長ハ其擔當ノ事務ニ於テハ寮頭ニ對峙ス  
ルノ責任ヲ有ス故ニ權内ノ事ニ於テハ其當  
否ヲ論弁シ其說議ヲ陳述スルヲ得又課中属  
員能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ稟白スルヲ得

第四節 各課名稱ノ文

各課專任ノ名稱ヲ設ケテ以テ寮務ヲ分掌セ  
シム即チ其制限ヲ定ムル左ノ如シ  
但事務ノ繁閑ニ隨ヒ更ニ分課ヲ廢置スル  
ハ寮頭ノ所見ニヨリ卿ノ決裁ヲ經テ之ヲ  
定ム

受付課

各院省使ヨリ送致スル諸公文及ヒ庶民  
ノ申陳書其他諸寮司局課回議冊等一切  
ノ文書帳簿ヲ領收シ寮中專任ノ各課ハ

此等ノ事務ハ  
手ノ申陳書  
手ノ文書帳簿

後省

每一課ニ長一員ヲ置キ分課ノ事務ヲ統理掌  
管セシム此長ハ助以下委任官ノ職任トシ然  
レトモ欠員アルカ或ハ事務ノ繁閑ニヨリ一  
人兩三課ヲ兼ヌルヲ得又ハ課長心得ノ名又  
以テ正權大属ヨリ補撰セシムルヲアルヘシ

第三節 課長責任ノ事

課長ハ其擔當ノ事務ニ於テハ寮頭ニ對峙ス  
ルノ責任ヲ有ス故ニ權内ノ事ニ於テハ其當  
否ヲ論弁シ其說議ヲ陳述スルヲ得又課中属  
員能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ稟白スルヲ得

第四節 各課名稱ノ文

各課專任ノ名稱ヲ設ケテ以テ寮務ヲ分掌セ  
シム即チ其制限ヲ定ムル左ノ如シ  
但事務ノ繁閑ニ隨ヒ更ニ分課ヲ廢置スル  
ハ寮頭ノ所見ニヨリ御ノ決裁ヲ經テ之ヲ  
定ム

受付課

各院省使ヨリ送致スル諸公文及ヒ府縣  
ノ申牒書其他諸寮司局課回議冊等一切  
ノ文書帳簿ヲ領收シ寮中專任ノ各課ハ

各分  
取極

每一課ニ長一員ヲ置キ分課ノ事務ヲ統理掌  
管セシム此長ハ助以下委任官ノ職任トス然  
レトモ欠員アルカ或ハ事務ノ繁閑ニヨリ一  
人兩三課ヲ兼ヌルヲ得又ハ課長心得ノ名ヲ  
以テ正權大属ヨリ補撰セシムルヲアルヘシ

第三節 課長責任ノ事

課長ハ其擔当ノ事務ニ於テハ寮頭ニ對峙ス  
ルノ責任ヲ有ス故ニ權内ノ事ニ於テハ其當  
否ヲ論弁シ其說議ヲ陳述スルヲ得又課中属  
員能ク勤惰ヲ監視シテ之ヲ稟白スルヲ得

第四節 各課名稱ノ文

各課專任ノ名稱ヲ設ケテ以テ寮務ヲ分掌セ  
シム即チ其制限ヲ定ムル左ノ如シ  
但事務ノ繁閑ニ隨ヒ更ニ分課ヲ廢置スル  
ハ寮頭ノ所見ニヨリ御ノ決裁ヲ經テ之ヲ  
定ム

受付課

各院省使ヨリ送致スル諸公文及ヒ府縣  
ノ申牒書其他諸寮司局課回議冊等一切  
ノ文書帳簿ヲ領收シ寮中專任ノ各課ハ

各分課人員ハ追而  
取極相伺可申事

分送シ及ヒ之ヲ各廳へ送達スル等ノ  
ヲ掌ル

諸務課

寮中一切ノ經費ヲ調理シ及ヒ雜務ヲ辨  
知シ該寮官員ノ履歴ヲ管理シ寮頭ノ指  
揮ニ從テ文案ヲ抄シ書記ヲ為ス等ノ  
ヲ掌ル

本課ノ處務ヲ分テ二部トス

第一部

寮印及ヒ鍵鑰ヲ掌管シ本寮ノ職員録

ヲ管理シ寮員ノ勤休表ヲ製シ宿直順  
序ヲ定ムル等總テ寮中ノ雜務ヲ調理  
スルヲ掌ル

寮中各員ノ身上ニ係ル一切ノ願請申  
報ノ類ヲ傳達スルヲ掌ル

寮頭檢閲ノ便ニ供スル為ノ便宜文書  
ヲ類集シ且寮頭ノ指揮ニ從テ各廳へ  
往復其他ノ文案ヲ具シ及ヒ書記等ノ  
ヲ掌ル

新ニ任官ノモノへ處務ノ大体ヲ熟讀

辨知セシムル為ノ常ニ当寮及ヒ本省  
事務章程處務順序等ヲ集蔵スルヲ  
掌ル

第二部

本寮必需ノ諸物品ヲ収取管理シ及ヒ  
修補管繕ノ事務ヲ辦理措置スルヲ  
掌ル

寮中諸官員ノ月給旅費其他一切ノ諸  
雜給、交付供給スルヲ掌ル

編集課

本課ノ處務ヲ分テ三部トス

第一部 本課

寮中一切ノ文書帳簿ヲ管集シ及ヒ考  
課狀ヲ作ル等ノヲ掌ル

第二部 分課

専ラ各課便利ノ為ニ設ル  
モノトス

定額金穀及ヒ經費ノ調査精算等総テ  
第一第二第三成算課專任ノ事務ニ關  
スル諸規則例規ヲ便宜類集編纂スル  
ヲ掌ル

第三部

大蔵省

計算方法及ヒ追算整理精算表等總テ  
第四第五成算課專任ノ事務ニ関スル  
諸規則例規ヲ便宜類集編纂スルヲ掌  
ル

### 第一成算課

各院省使府縣其他總テ定額アル經費ヲ  
調査交付シ定額ニ関スル規則ノ疑問ニ  
回答若シクハ指令等ノ文案ヲ調理スル  
ヲ掌ル  
本課ノ事務ヲ分テ二部トス

### 第一部

定額アル諸經費ヲ調査交付シ及ヒ定  
額ニ関スル規則等 疑問ニ回答若シ  
クハ指令スルノ文案ヲ調理スルヲ  
掌ル

### 第二部

各廳定額常費等ヲ支給スルニ当テ其  
金穀ノ高ヲ簿記シ及ヒ其支給済未済  
ノ高ヲ明瞭区分シ月報ヲ製スル等ノ  
ヲ掌ル

第二成算課

官省 使ノ經費及ニ收入勘定帳ヲ分掌  
調理スルヲ掌ル

本課ノ事務ヲ分テ八部トス

第一部

陸軍省

該省資用ノ額金仕拂及ニ收入金等一  
切ノ勘定簿冊其他物品仕拂有高帳等  
ヲ程規ニ照シテ精査勘算シ其經費勘  
定帳ノ如キハ金額領受ノ際各廳ヨリ

出納頭ニ差出タル請取證書ノ該数ノ

以テ丸金ノ支給高ヲ了知シ調成ノ後

決算済ノ證書ヲ作リ該廳ノ請取證書

トヲ併セテ第四課ニ送致スルヲ掌ル

但收出勘定帳及ニ物品仕拂有高帳

等ヲ精調スルハ第二部ヨリ八部ニ

至ルマテ其順序本条ニ異ルナシ

ニ已下毎部ハ其擔理スル廳名ヲ奉

クルノミ

第二部

大藏省

海軍省

第三部

工部省

第四部

内務省

警視廳

第五部

大藏省

宮内省

第六部

太政官

文部省

第七部

外務省

司法省

第八部

開拓使

教部省

右各員分掌ノ事務ヲシテ彼是混淆セ

シムヘカラス

第三成算課

各府縣ノ經費及ヒ收入ノ勘定帳簿其他  
物品仕拂有高帳等ヲ分掌整理スルヲ  
掌ル

本課ノ事務ヲ分テ十部トス



第一部

東京府

埼玉縣

熊谷縣

千葉縣

朽木縣

新沼縣

茨城縣

該府該縣資用ノ金穀仕拂及ヒ收入金穀等一切ノ勘定簿冊其他物品有高帳等ヲ規則ニ照シテ精査勘算シ其經費勘定帳ノ如キハ金穀領受ノ際各廳ヨリ出納頭ニ差出タル請取證書ノ該數

ヲ以テ元金ノ支給高ヲ了知シ調成ノ後決算済ノ證書ヲ作り該廳ノ請取證書トヲ併セテ第四課ニ送致ス

但収出勘定帳簿ヲ精調スルハ第三部ヨリ十部ニ至ルマテ其順序本條ニ全シ故ニ以下每部ハ其廳名ノミヲ奉クルノミ

第二部

神奈川縣

足柄縣

静岡縣

濱松縣

山梨縣

岐阜縣

第三部

筑摩縣

長野縣

新川縣

石川縣

相川縣

新潟縣

第四部

愛知縣

滋賀縣

敦賀縣

京都府

大坂府

奈良縣

第五部

兵庫縣

飾磨縣

和歌山縣

度會縣

堺縣

三重縣

第六部

福島縣

磐前縣

水澤縣

岩手縣

宮城縣

若松縣

第七部

置賜縣

山形縣

酒田縣

秋田縣

青森縣

第八部

高知縣

名東縣

愛媛縣

濱田縣

豐岡縣

鳥取縣

島根縣

第九部

北條縣

岡山縣

小田縣

廣島縣

山口縣

小倉縣

大分縣

第十部

佐賀縣

白川縣

宮崎縣

鹿兒島縣

長崎縣

福岡縣

三瀨縣

右各部分掌ノ事務ヲシテ彼是混淆セ

シムヘカラス

第四成算課

一切收入支出スル金穀ノ本末ト該數ト

ヲ則カニシ以テ顯時収出スル所ノ金穀  
ハ各廳ヨリ送致スル簿冊ニ就テ決算ノ  
済否ヲ判明ニシ超過追調スル等ノ事ヲ  
掌ル

本課ノ職務ヲ分テ四部トス

### 第一部

一切収入スル金穀ハ租税寮其他ノ報  
告ニヨリ年度科目ヲ辨理追調シ既ニ  
納入スル金穀領受ノ證書ヲ交付シ収  
入未済既済ノ計表ヲ製シ総テ収入金

穀ニ関スルモノヲ調理スルヲ掌ル

### 第二部

一切支出スルノ金穀ハ出納寮ノ報告  
ト本寮ニ記存スル帳簿トニ因テ年度  
品種ヲ類別追調シ其既ニ支出スルノ  
金穀ハ各廳ノ精算簿冊ニ就テ決算ノ  
済否ヲ督シ決算完結ニ至ルモノハ決  
算済ノ證書ヲ交付シ香ルモノハ漸次  
之ヲ督促シ正算未済既済ノ計表ヲ製  
都テ一般支出金穀ノ本末ヲ明了ニ

スルヲ掌ル

但収入ト支出ト混同スヘカラス  
ヲ以テ第一第二ノ如ク提掌ノ部門  
ヲ分ツトイヘトモ此兩部ニ於ル終  
始連環当務ヲ處弁セサルヘカラス  
出納寮勘定簿冊ニ添付シ来ル各廳ノ  
請取證書ハ本課ノ勘合了テ官省ト府  
縣トヲ区分シ以テ第三三課ニ送致シ  
元金支給ノ多寡ヲ了知セシム

### 第三部

収入支出スヘキ金穀ノ該數ヲ正長  
其年度ヲ明ニシ甲部乙部或ハ準備  
ノ収出ニ属スヘキモノヲ判明スルヲ  
掌ル

### 第四部

凡ソ収入租税ヲ除支出租税外ハ  
決議簿冊或ハ傳票達書ヲ送致スルア  
レハ其負額ト顛末ヲ日計簿ニ登記シ  
保證ノ印ヲ勘合シテ傳票課ニ回致シ  
及一傳票ニ付スルノ金算事款ハ各部

門ノ區別シテ日計簿ヨリ追算簿ニ登録スルヲ掌ル

### 第五成算課

各課ニ於テ整理セシ收入支出勘定簿冊ヲ領收シ成算完結ノ精算表ヲ調理スルヲ掌ル

本課ノ職務ヲ分テ二部トス

#### 第一部

收入金穀ノ成算完結ノ精算表ヲ調理スルヲ掌ル

#### 第二部

支出金穀ノ成算完結ノ精算表ヲ調理スルヲ掌ル

#### 改正掛

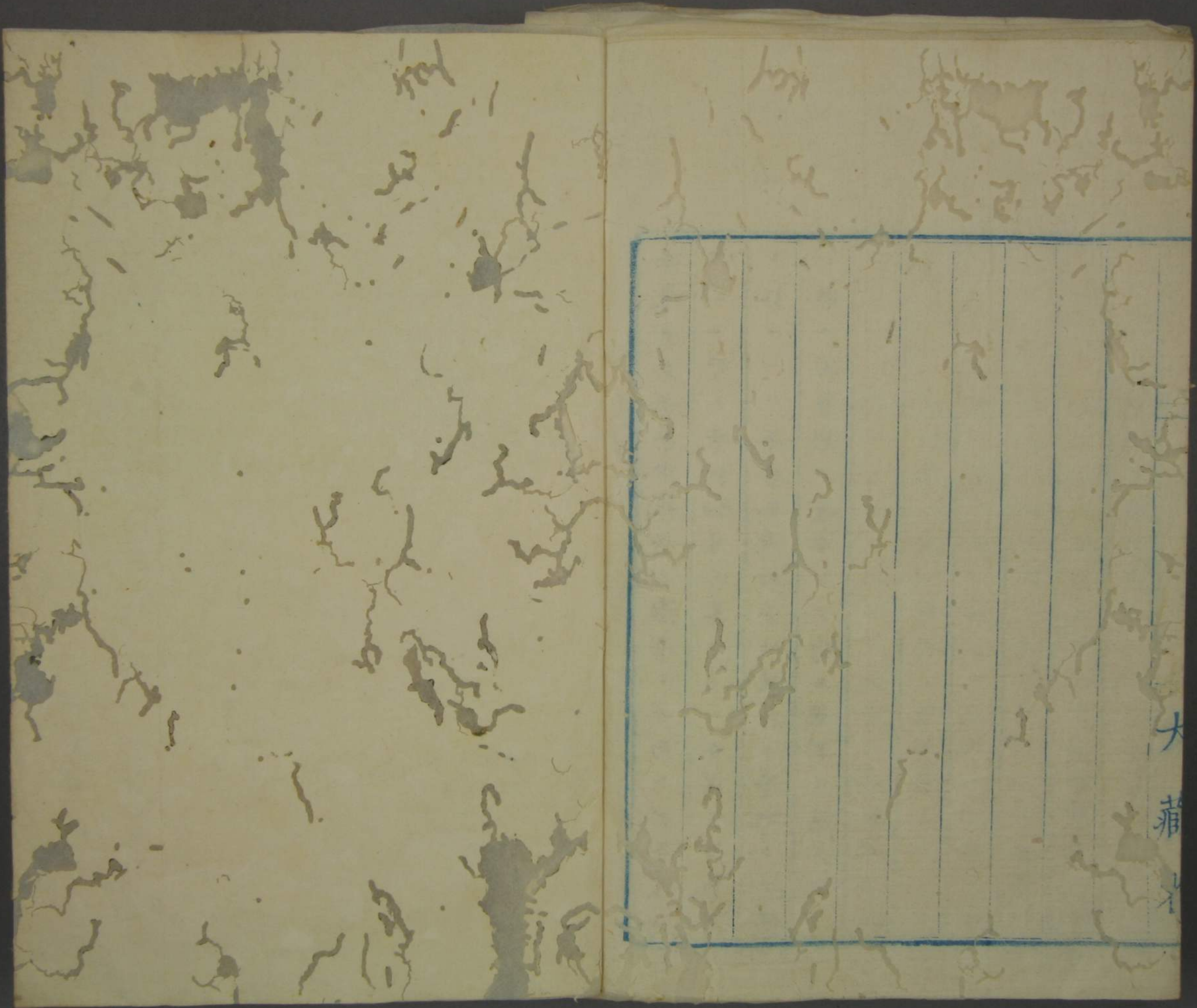
各廳ヨリ送呈スル歳入出豫算表ヲ調査勘算シテ内譯明細簿ヲ製シ而シテ一般公布アル見込會計表ヲ根基トシ各廳ヨリ送致スル比較表等ニ據リ實際収出ノ多寡ヲ追調シテ歳入出決算明細簿ヲ製シ其他出納順序及ヒ検査法改正ニ関ス

ル事務ヲ擔理ス

但方今此掛リヲ置クハ出納順序及ヒ  
検査法改正順序創定ノ際百事着実精  
整ヲ要スルノ秋ナルヲ以テノ故ニ此  
改正掛ヲ置キ該務ヲ掌管擔理セシム  
然リト雖モ改正ノ順序一般慣熟百端  
整備ニ至ル上ハ改正掛ノ名義ヲ廢  
歲入出金穀調査ニ關スル事務ヲ擔理  
スル一課ヲ改置ス

右各寮處務ノ順序ハ大藏卿ノ判決ヲ得テ定ム

ル處ニシテ寮中執務ノ憑準トス而シテ各  
寮スル所ノ條款細目ニ至リテハ各課並事務條例  
ニ詳ナレハ毎事毎件必ス此順序ト條例トニ照  
シ能ク其旨趣ヲ遵奉シテ苟モ規程ヲ愆ルコト



大  
痛



